

平成25年度
男女共同参画に関する意識調査

平成26年7月

帯広市

(表紙裏面)

— 目 次 —

I	調査の概要	
1	調査の目的	1
2	調査の内容	1
3	調査の方法	1
4	回収結果	1
5	回答者の属性	1
6	本書の見方	2
7	調査の精度	3
8	標本誤差	3
9	参考資料	4
II	調査の結果	
1	男女共同参画に関する言葉について	
問1	見たり聞いたりしたことのある言葉	5
2	家庭生活について	
問2	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方	7
問3	家庭での家事・育児の役割分担	9
問4	男性が家事等に積極的に参加するために必要なこと	11
問5-1	仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度(希望)	13
問5-2	仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度(現実)	14
3	職業について	
問6	女性が職業をもつこと	17
問7-1	現在の社会での女性の働きやすさ	19
問7-2	女性が働きやすい状況にあるとは思わない理由	21
4	男女の人権について	
問8	女性の人権が尊重されていないと感じること	23
問9-1	DVについて経験したり見聞きしたこと	25
問9-2	被害を受けた人のDVについての相談先	27
問10	セクハラについて経験したり見聞きしたこと	29
問11	女性に対する暴力をなくすためにすること	31
5	男女共同参画について	
問12	女性の意見が政治や行政に反映されているか	33
問13	男女の地位の平等感	35
問14	男女が平等になるために重要なこと	37
問15	帯広市が男女共同参画を進めるために重要なこと	39
III	調査票	41

I 調査の概要

1 調査の目的

男女共同参画社会の実現に向け、市民の生活・職業に対する男女の意識を調査し、今後の施策に反映させることを目的に実施しました。

2 調査の内容

- (1) 男女共同参画に関する言葉について
- (2) 家庭生活について
- (3) 職業について
- (4) 男女の人権について
- (5) 男女共同参画について

3 調査の方法

- (1) 調査対象 帯広市に住所を有する20歳以上の男女
- (2) 標本数 2,000人
- (3) 抽出方法 地区別・男女別・年齢階層別無作為抽出
- (4) 調査方法 メール便による調査票の発送、郵便回収
- (5) 調査時期 平成26年1月31日～2月14日

4 回収結果

- (1) 回収数 743人(37.4%、前回 平成20年 34.8%)
- (2) 有効発送数 1,988人
- (3) 調査不能数 12人(転居先不明等による配達不能)

5 回答者の属性

(1) 男女別回答数

	回答数	比率
男性	332	44.7%
女性	409	55.0%
無回答	2	0.3%

(2) 年齢別回答数

	回答数	比率
20～29歳	56	7.5%
30～39歳	92	12.4%
40～49歳	103	13.9%
50～59歳	142	19.1%
60～69歳	168	22.6%
70歳以上	182	24.5%

(3) 既婚・未婚別回答数

	回答数	比 率
未婚	95	12.8%
既婚	553	74.4%
離別または死別	88	11.8%
無回答	7	0.9%

(4) 家庭形態別回答数（既婚者のみ）

	回答数	比 率
共働き	224	40.5%
共働きでない	265	47.9%
その他	25	4.5%
無回答	39	7.1%

(5) 職業別回答数

		回答数	比 率
自 営 業	農林漁業	28	3.8%
	商工サービス業	46	6.2%
	自由業	17	2.3%
雇 用 者	民間会社・工場等	271	36.5%
	公務員、教員	50	6.7%
無 職	主婦	138	18.6%
	その他無職（学生含む）	125	16.8%
その他		39	5.2%
無回答		29	3.9%

6 本書の見方

- (1) 表中「N」とは、回答総数のことです。
- (2) 回答率は少数第2位を四捨五入しました。このため、個々の比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- (3) 質問で、「いくつでも」のように複数回答を認めている場合は、その回答率の合計は100.0%を超える場合があります。
- (4) 男女共同参画の推進に向けたご意見、ご要望等の自由記述の部分については、今後の施策の参考として活用させていただきます。

7 調査の精度

本調査の回収数は743件で、信頼度95%、標本誤差を5%とした場合の統計学上の必要サンプル数384件を上回り、本調査から得られた分析結果は、帯広市全体としての意見を推定するために十分な精度を得ています。

【必要サンプル数の算出式】

$$n \geq N \div [\{(e \div 1.96)^2 \times (N-1) \times 4\} + 1]$$

N = 母集団の数 (調査対象者数) (=140,044人 : 平成25年12月31日現在の20歳以上人口)

e = 標本誤差 (=0.05)

n = 必要サンプル数

(※ 1.96 は上記の信頼度を設定した場合に用いる統計上の定数)

計算の結果、 $n \geq 383.111\dots$ となり、必要サンプル数は384となります。

8 標本誤差

本調査は標本調査であるため、一定の範囲内で統計上の誤差 (標本誤差) が生じます。信頼度を95%とした場合、標本誤差は次式により計算されます。

$$\text{標本誤差} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \cdot \frac{p(1-p)}{n}}$$

N = 母集団の数 (調査対象者数)

n = 標本数 (回答者数)

p = 回答の比率

本調査の標本誤差は、概ね次のとおりです。

調査対象 N(母集団)	回答者 n(標本数)	標本誤差 (信頼度95%)				
		p (回答の比率)				
対象者数	回答数	50%	60%	70%	80%	90%
			40%	30%	20%	10%
140,044	743	3.6%	3.5%	3.3%	2.9%	2.2%

この表の見方については、例えば、「ある質問について全体の「賛成」の割合が50%であった場合、母集団について調査をしても100回中95回は、「賛成」の割合が46.4%~53.6%(50.0%±3.6%)の間の値となる」とみることができる。

9 参考資料

- 20年調査との比較にあたっては、
「平成20年度 男女共同参画に関する意識調査」（平成20年11月）
の調査結果を使用しています。
- 16年調査との比較にあたっては、
「平成16年度 男女共同参画に関する意識調査」（平成17年3月）
の調査結果を使用しています。
- 12年調査との比較にあたっては、
「男女平等に関する市民アンケート調査」（平成12年10月）
の調査結果を使用しています。
- 北海道との比較にあたっては、
「平成18年度 道民意識調査」（平成18年10月）
の調査結果を使用しています。
- 国との比較にあたっては、
「男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府 平成24年10月）
の調査結果を使用しています。
- 国前回調査との比較にあたっては、
「男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府 平成21年10月）
の調査結果を使用しています。

Ⅱ 調査の結果

1. 男女共同参画に関する言葉について

問1 次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものを、いくつでもお選びください。

見たり聞いたりしたことのある言葉について、「DV（配偶者からの暴力）」と答えた人の割合は93.5%、「男女雇用機会均等法」と答えた人の割合は83.2%、「育児介護休業法」と答えた人の割合は75.2%と高く、以下「男女共同参画社会」（58.7%）、「女子差別撤廃条約」（42.7%）の順となっている。（上位5項目）

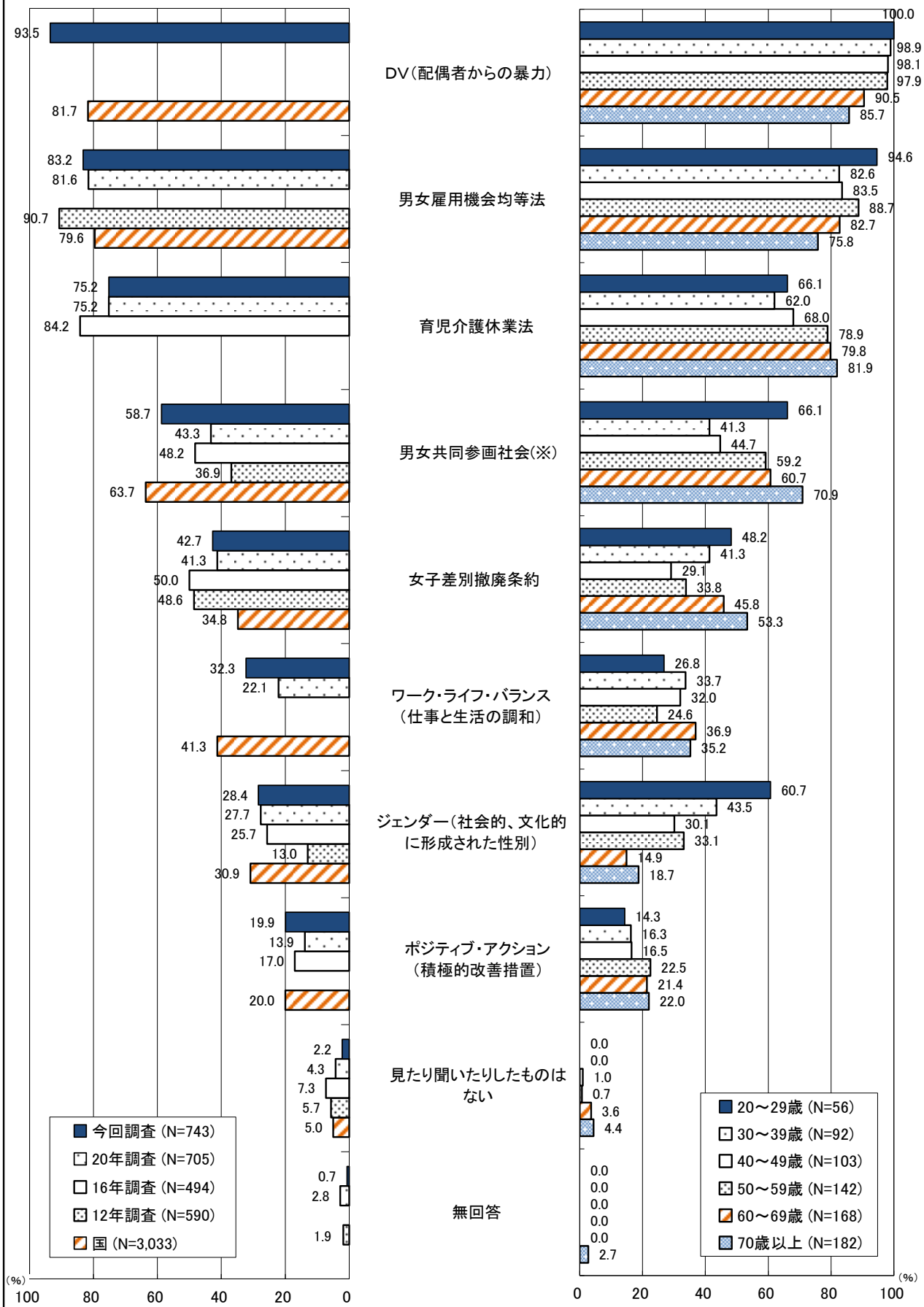
○性別で見ると、「DV（配偶者からの暴力）」と答えた人の割合は女性で94.1%、男性で93.1%と男女いずれも高く、「男女雇用機会均等法」「育児介護休業法」「男女共同参画社会」「女子差別撤廃条約」と答えた人の割合は男性で高くなっている。

○年齢別で見ると、「DV（配偶者からの暴力）」と答えた人の割合は20～40歳代でいずれも高く、「男女雇用機会均等法」と答えた人の割合は20歳代で、「育児介護休業法」と答えた人の割合は50～70歳以上で、「男女共同参画社会」「女子差別撤廃条約」と答えた人の割合は70歳以上で、それぞれ高くなっている。

○国と比べて見ると、「DV（配偶者からの暴力）」と答えた人の割合は国の81.7%に対し、帯広市は93.5%と高く、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」と答えた人の割合は国の41.3%に対し、帯広市は32.3%と低くなっている。

○20年調査と比べて見ると、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」と答えた人の割合は20年調査の22.1%に対し今回調査は32.3%、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」と答えた人の割合は20年調査の13.9%に対し今回調査は19.9%と、今回調査がいずれも高くなっている。

図1 見たり聞いたりしたことのある言葉



※男女共同参画社会基本法 (16年及び20年調査)

2. 家庭生活について

問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中から、1つだけお選びください。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、「反対」とする人の割合は50.7%（「反対」17.9%+「どちらかといえば反対」32.8%）、「賛成とする人の割合は38.0%（「賛成」7.0%+「どちらかといえば賛成」31.0%）となっている。

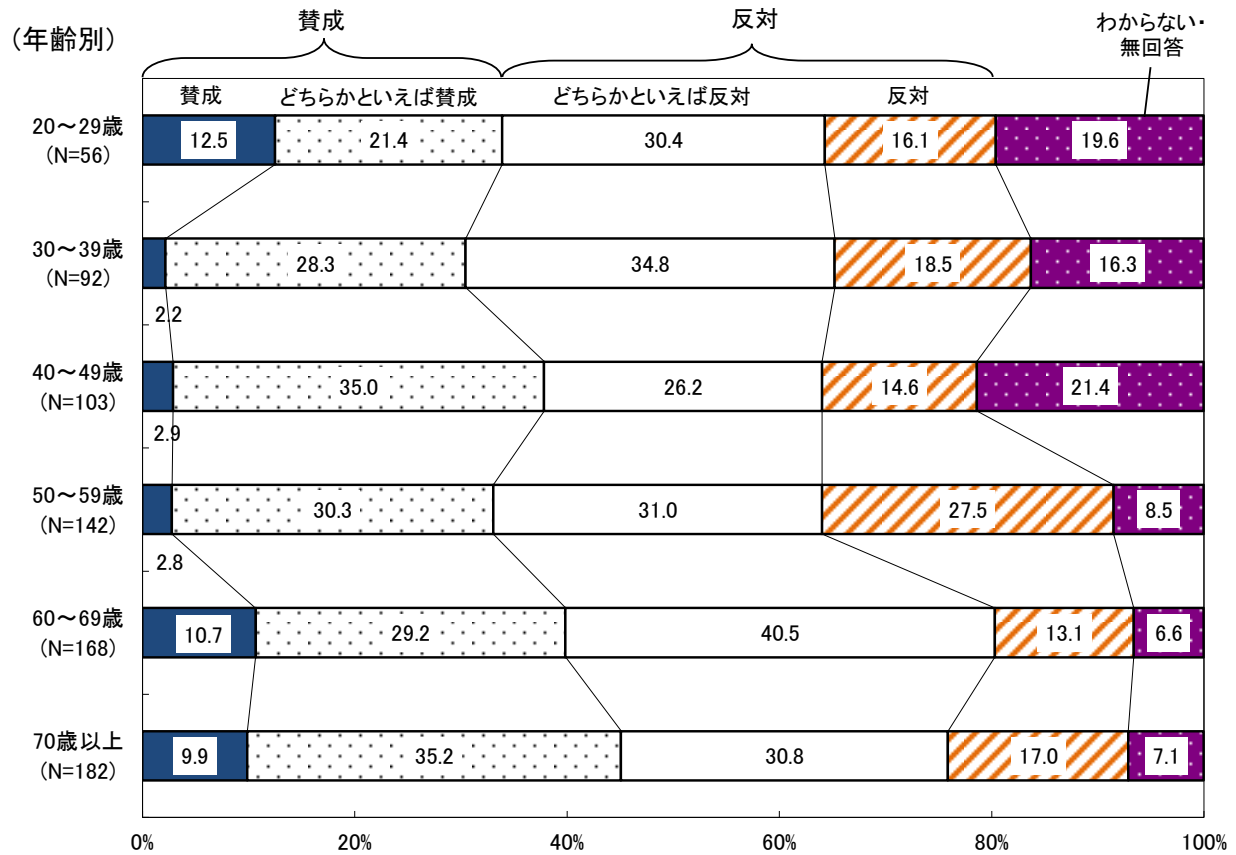
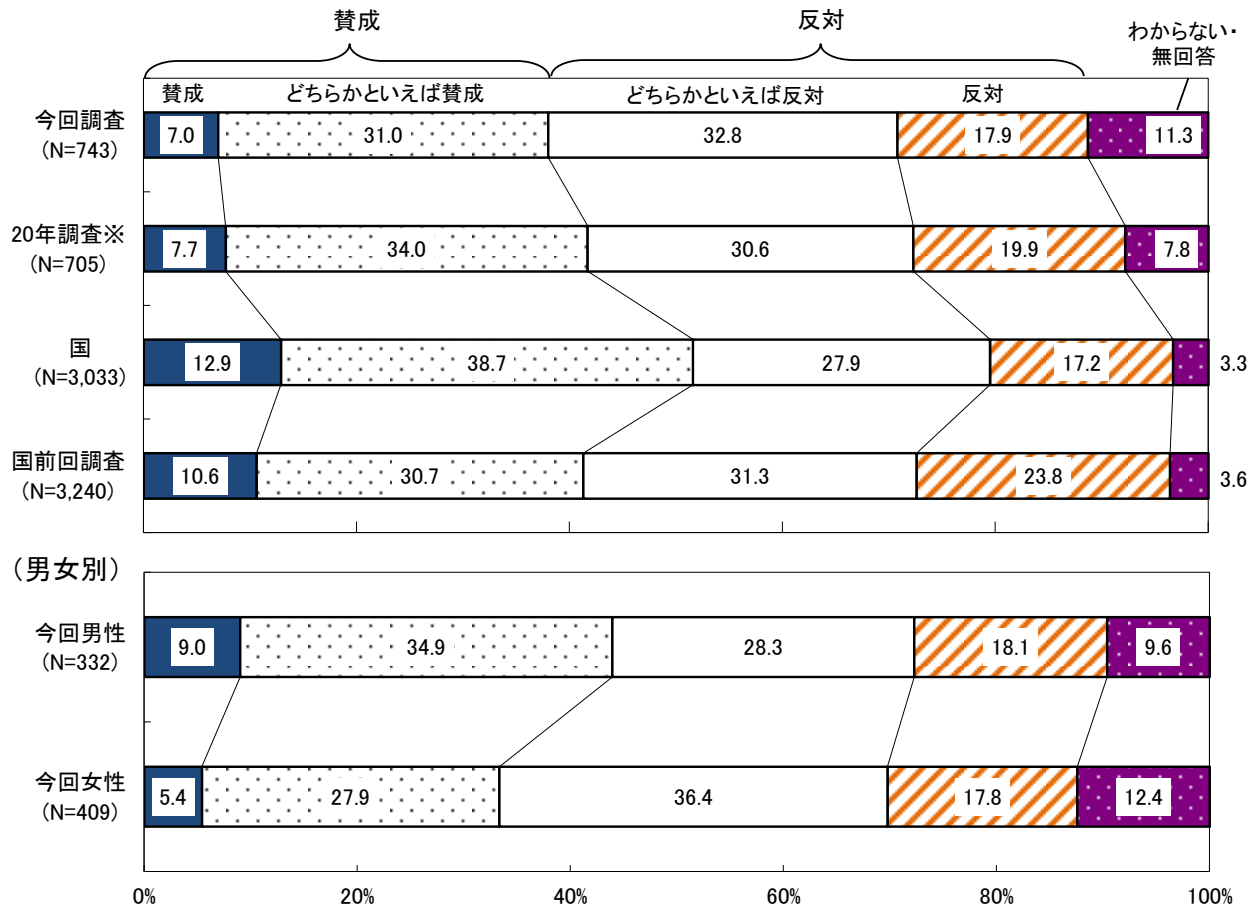
○性別で見ると、「反対」とする人の割合は男性で46.4%、女性で54.2%と女性で高く、「賛成」とする人の割合は男性で43.9%、女性で33.3%と男性で高くなっている。

○年齢別で見ると、「反対」とする人の割合は50歳代で58.5%、「賛成」とする人の割合は70歳以上で45.1%と、それぞれ高くなっている。

○国と比べて見ると、「反対」とする人の割合は国の45.1%に対し帯広市は50.7%と高く、「賛成」とする人の割合は国の51.6%に対し帯広市は38.0%と低くなっている。

国では「賛成」とする人の割合は、前回調査で41.3%、今回調査で51.6%と高くなっているのに対し、帯広市では20年調査で41.7%、今回調査で38.0%と低くなっている。

図2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方



※「男は仕事、女は家庭」という考え方 (20年調査)

問3 一般的に、家庭での家事や育児の役割分担について、あなたはどのように考えますか。次の中から、1つだけお選びください。

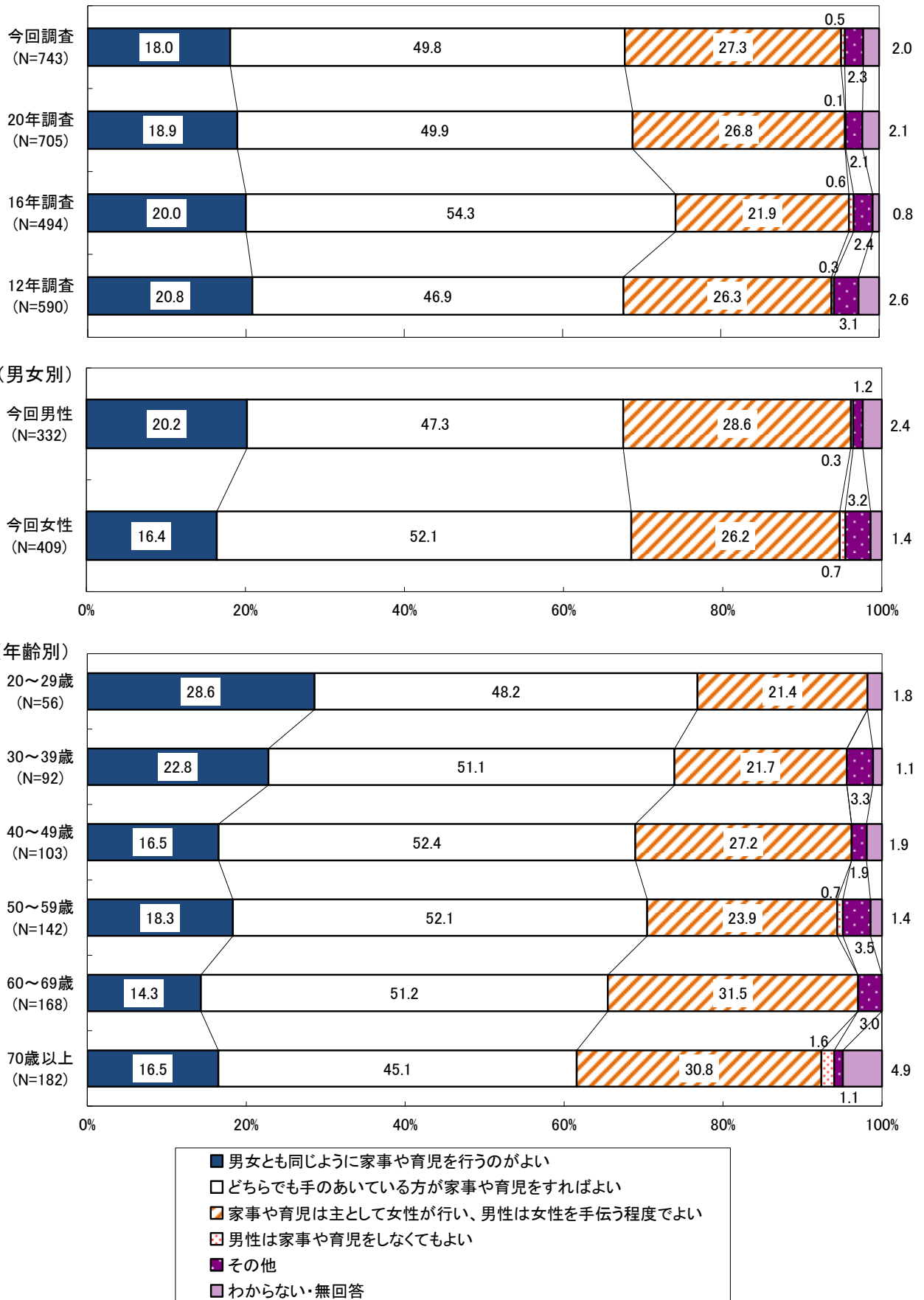
家庭での家事や育児の役割分担について、「どちらでも手のあいている方が家事や育児をすればよい」と答えた人の割合は49.8%と最も高く、次いで「家事や育児は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい」と答えた人の割合は27.3%、「男女とも同じように家事や育児を行うのがよい」と答えた人の割合は18.0%となっている。

○性別に見ると、「どちらでも手のあいている方が家事や育児をすればよい」と答えた人の割合は女性で52.1%と高く、「家事や育児は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい」「男女とも同じように家事や育児を行うのがよい」と答えた人の割合は男性で、それぞれ高くなっている。

○年齢別で見ると、「家事や育児は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度がよい」と答えた人の割合は60歳代と70歳以上で、「男女とも同じように家事や育児を行うのがよい」と答えた人の割合は20歳代で、それぞれ高くなっている。

○20年調査と比べて見ると、「家事や育児は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい」と答えた人の割合は20年調査の26.8%に対し今回調査は27.3%と高く、「男女とも同じように家事や育児を行うのがよい」と答えた人の割合は20年調査の18.9%に対し今回調査は18.0%と低くなっている。

図3 家庭での家事・育児の役割分担



問4 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、いくつでもお選びください。

男性が家事等に参加していくために必要なことについて、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と答えた人の割合は79.8%と最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」と答えた人の割合は60.3%、以下「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」(55.6%)、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(55.2%)、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」(50.5%)となっている。(上位5項目)

○性別で見ると、「男性が家事に参加する事に対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」と答えた人の割合は女性で、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」と答えた人の割合は男性で、それぞれ高くなっている。

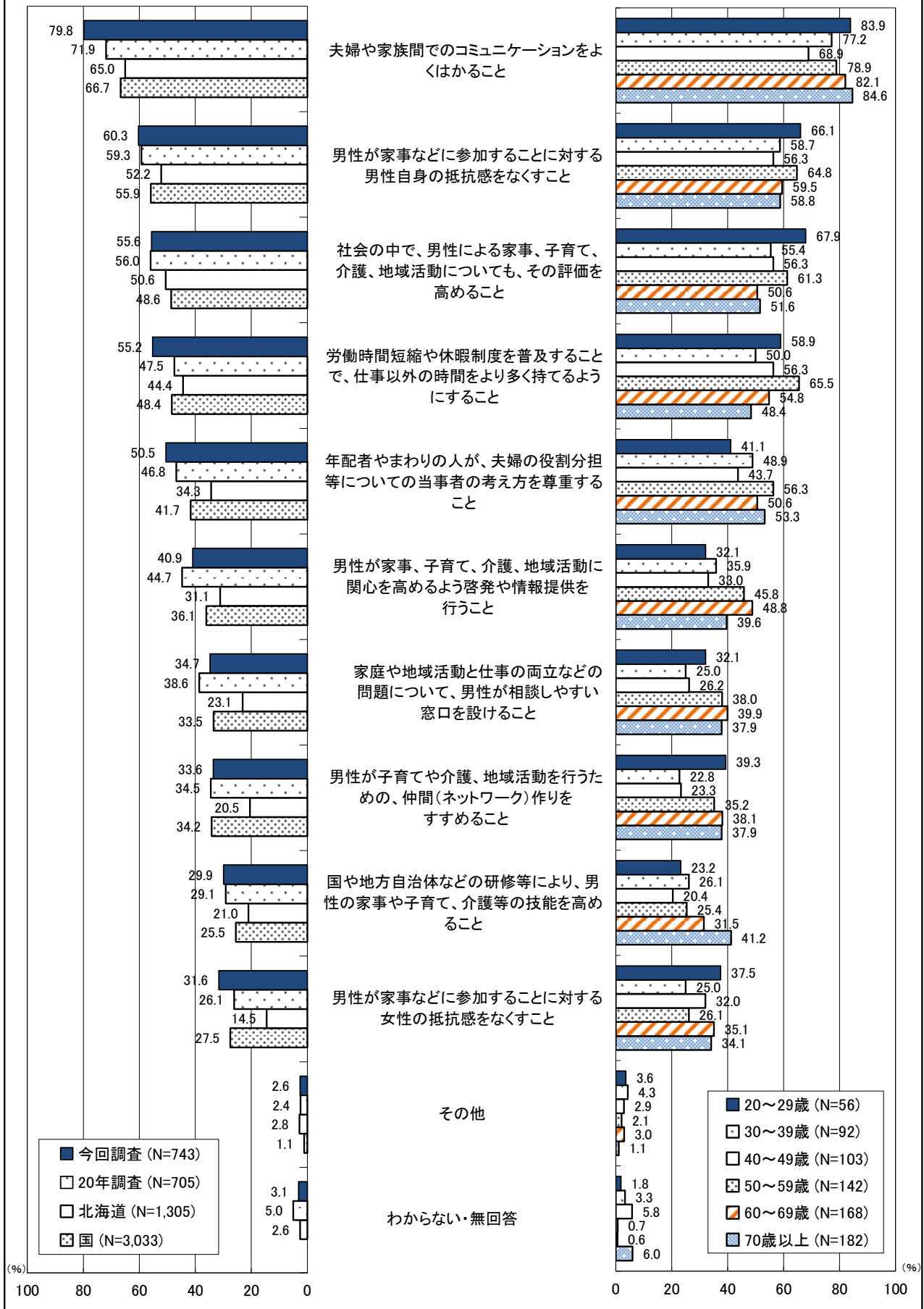
○年齢別で見ると、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」と答えた人の割合は20歳代で、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」と答えた人の割合は50歳代で、それぞれ高くなっている。

○北海道と比べて見ると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と答えた人の割合は北海道の65.0%に対し帯広市は79.8%、「男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」と答えた人の割合は北海道の14.5%に対し帯広市は31.6%と、帯広市がいずれも高くなっている。

○国と比べて見ると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と答えた人の割合は国の66.7%に対し帯広市は79.8%、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」と答えた人の割合は国の41.7%に対し帯広市は50.5%と、帯広市がいずれも高くなっている。

○20年調査と比べて見ると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と答えた人の割合は20年調査の71.9%に対し今回調査は79.8%、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」と答えた人の割合は20年調査の47.5%に対し今回調査は55.2%と帯広市がいずれも高くなっている。

図4 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと



問5-1 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についてお伺いします。まず、あなたの希望に最も近いものを次の中から、1つだけお選びください。

生活の中での優先度について、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」と答えた人の割合は38.5%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」と答えた人の割合は18.0%、「家庭生活」を優先したい」と答えた人の割合は17.6%と高く、以下「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（9.4%）、「仕事」を優先したい（6.2%）の順となっている。

○性別で見ると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」「仕事」を優先したい」と答えた人の割合は男性で、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」「家庭生活」を優先したい」と答えた人の割合は女性で、それぞれ高くなっている。

○年齢別で見ると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」と答えた人の割合は40歳代で47.6%と高く、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」と答えた人の割合は50歳代と60歳代で、「家庭生活」を優先したい」と答えた人の割合は20歳代で、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」と答えた人の割合は70歳以上で、「仕事」を優先したい」と答えた人の割合は50歳代で、それぞれ高くなっている。

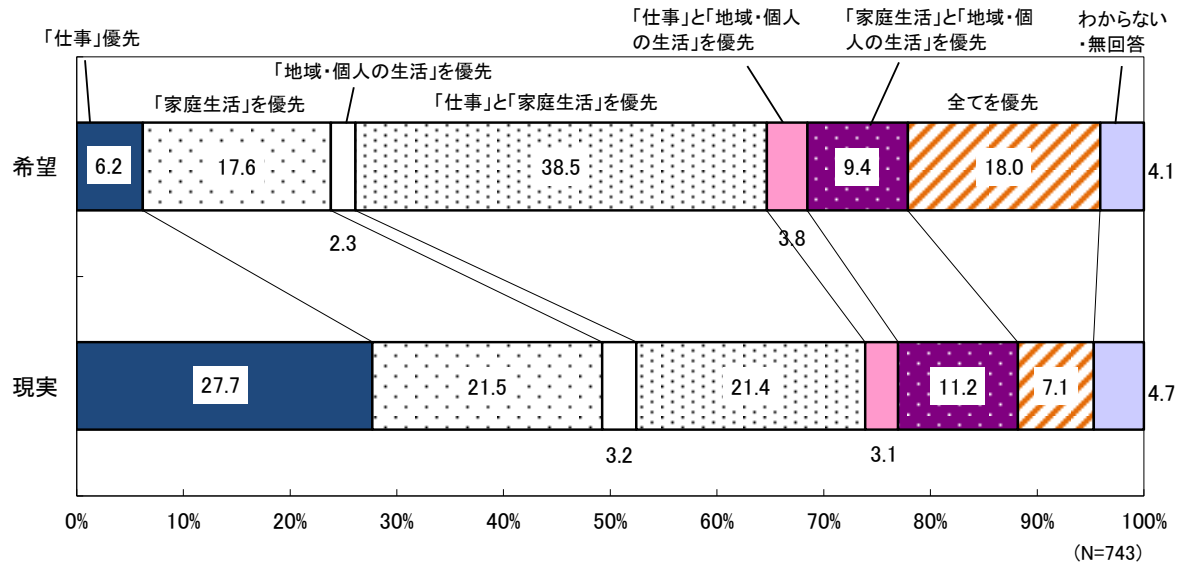
問5－2 それでは、あなたの現実（現状）に最も近いものを次の中から、1つだけお選びください。

生活の中での優先度について、「「仕事」を優先している」と答えた人の割合は27.7%と高く、「家庭生活」を優先している」と答えた人の割合は21.5%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」と答えた人の割合は21.4%、以下「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している（11.2%）、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している（7.1%）となっている。

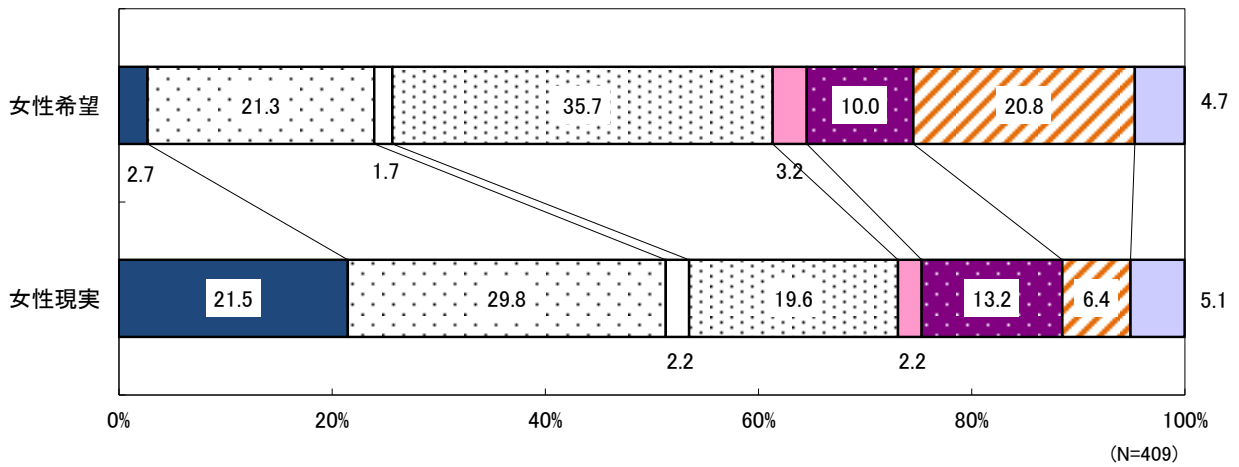
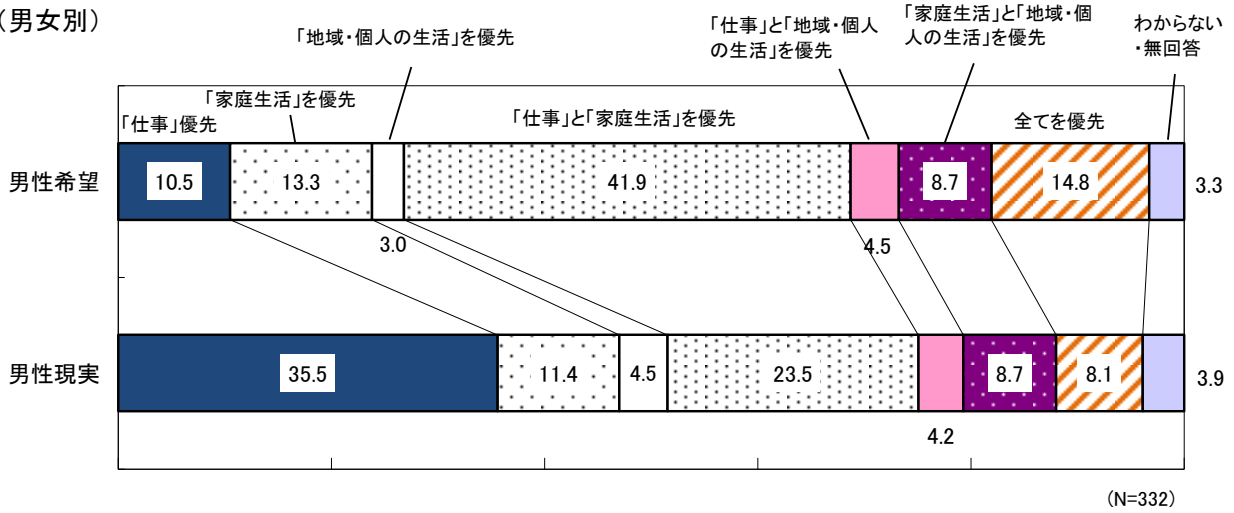
○性別で見ると、「「仕事」を優先している」「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」と答えた人の割合は男性で、「家庭生活」を優先している」「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」と答えた人の割合は女性で、それぞれ高くなっている。

○年齢別で見ると、「「仕事」を優先している」は40歳代で43.7%と高く、「家庭生活」を優先している」「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」と答えた人の割合は30歳代で、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」と答えた人の割合は70歳以上で、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」と答えた人の割合は60歳代で、それぞれ高くなっている。

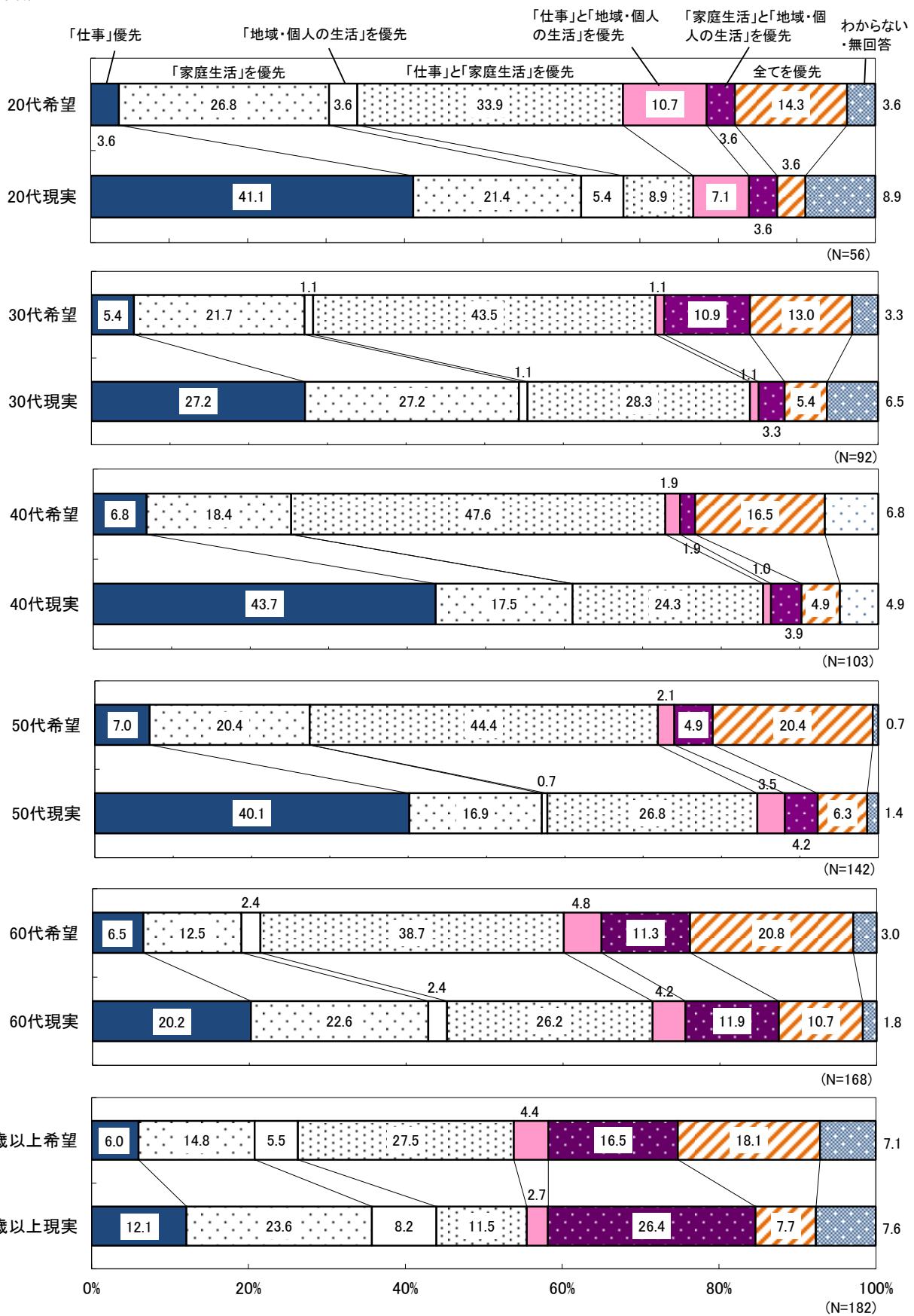
図5 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度



(男女別)



(年齢別)



3. 職業について

問6 女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。次の中から、1つだけお選びください。

女性が職業をもつことについて、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた人の割合は41.0%、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた人の割合は33.6%、「その他」と答えた人の割合は11.0%となっており、「本人の自由」「一概にはいえない」との意見があった。

○性別で見ると、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた人の割合は男性で高く、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた人の割合は男女ともに高くなっている。

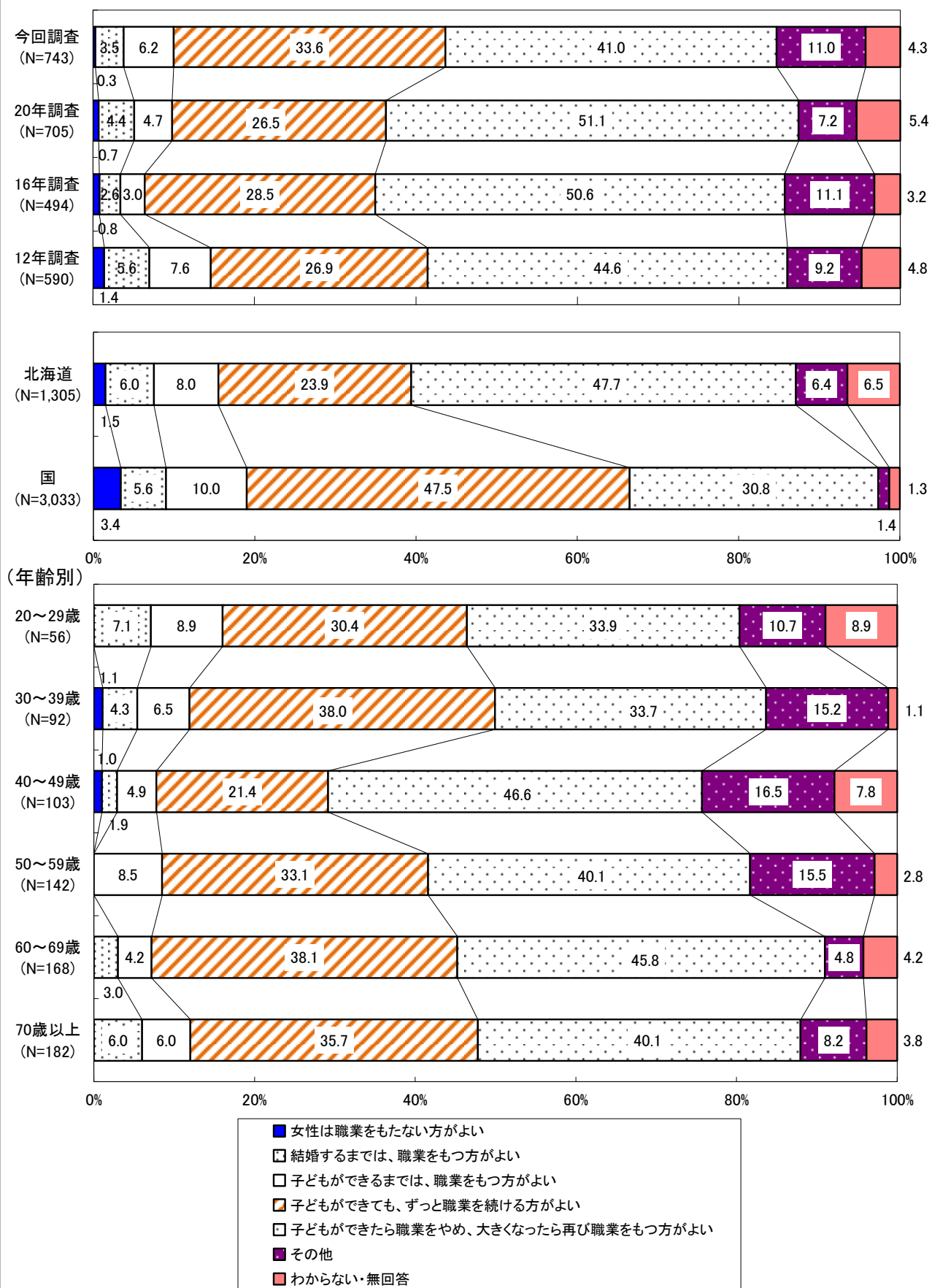
○年齢別で見ると、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた人の割合は40歳代と60歳代で高く、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた人の割合は40歳代で低くなっている。

○北海道と比べて見ると、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた人の割合は北海道の47.7%に対し帯広市は41.0%と低く、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた人の割合は北海道の23.9%に対し帯広市は33.6%と高くなっている。

○国と比べて見ると、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた人の割合は国の30.8%に対し帯広市は41.0%と高く、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた人の割合は国の47.5%に対し帯広市は33.6%と低くなっている。

○20年調査と比べて見ると、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた人の割合は20年調査の51.1%に対し今回調査は41.0%と低く、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた人の割合は20年調査の26.5%に対し今回調査は33.6%と高くなっている。

図6 女性が職業をもつこと



問7-1 現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。次の中から、1つだけお選びください。

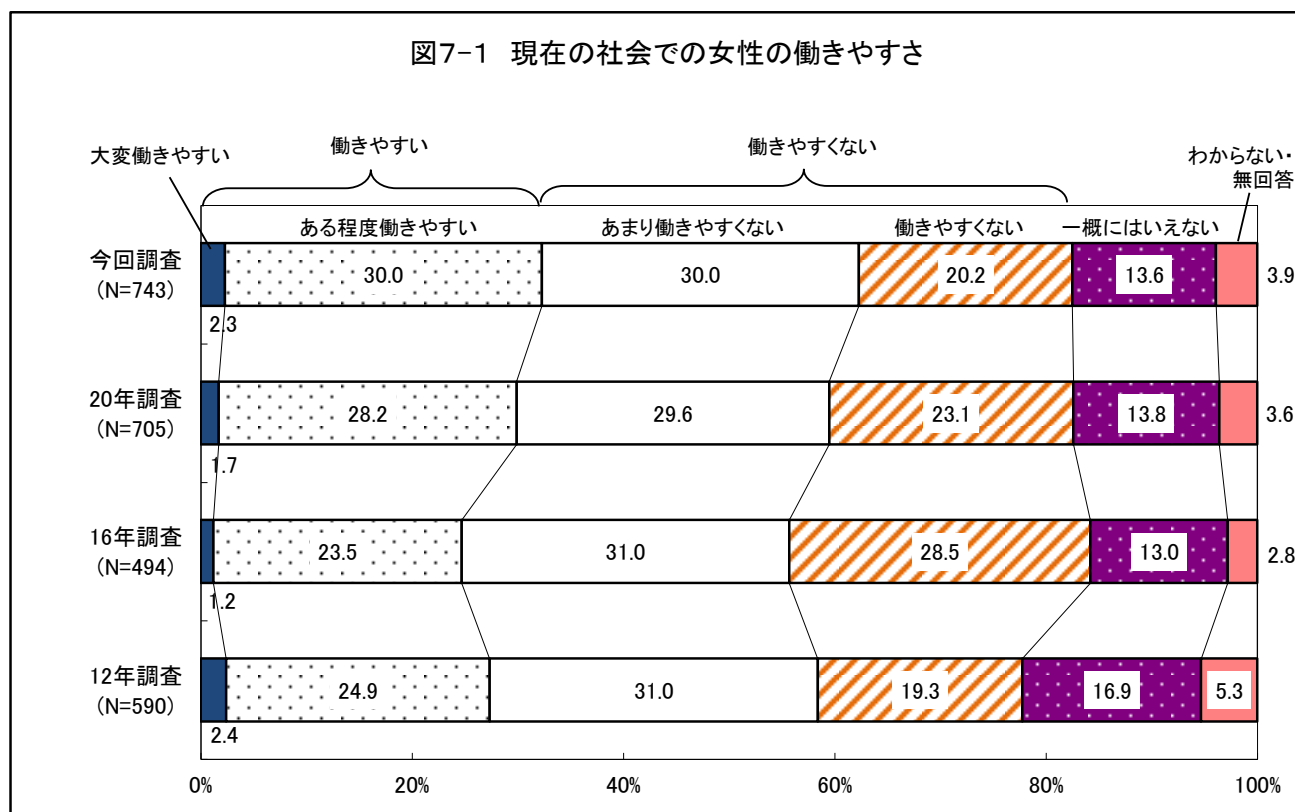
現在の社会での女性の働きやすさについて、「働きやすいとは思わない」とする人の割合は50.2%（「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」30.0%+「働きやすい状況にあるとは思わない」20.2%）、「働きやすい」とする人の割合は32.3%（「大変働きやすい状況にあると思う」2.3%+「ある程度働きやすい状況にあると思う」30.0%）となっている。

○性別で見ると、「働きやすいとは思わない」とする人の割合は男性で50.3%、女性で50.2%、「働きやすい」とする人の割合は男性で32.5%、女性で32.0%と、いずれも性別による大きな差は見られなかった。

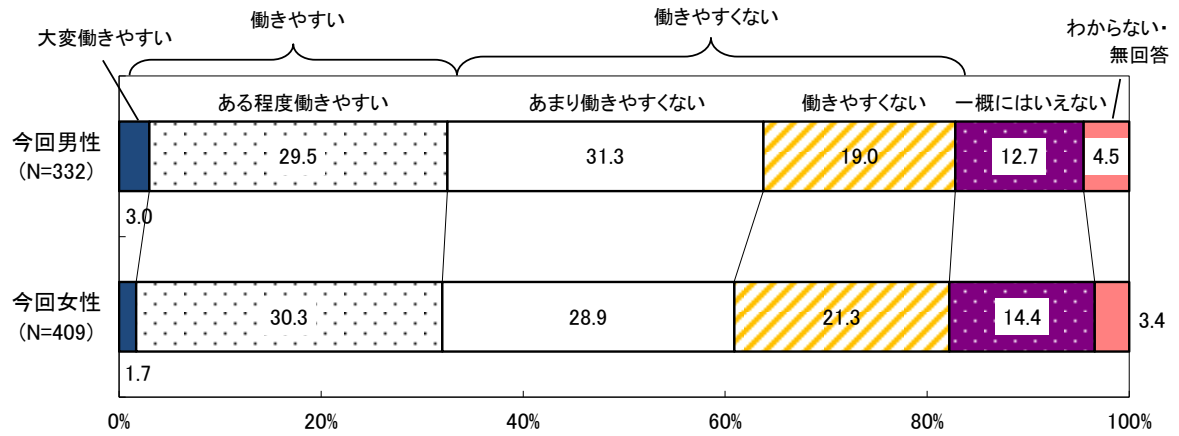
○年齢別で見ると、「働きやすいとは思わない」とする人の割合は50歳代で61.3%、「働きやすい」とする人の割合は20歳代で46.5%と、それぞれ高くなっている。

○職業別で見ると、「働きやすいとは思わない」とする人の割合は自由業で58.8%と高く、「働きやすい」とする人の割合は農林漁業で46.5%と高くなっている。

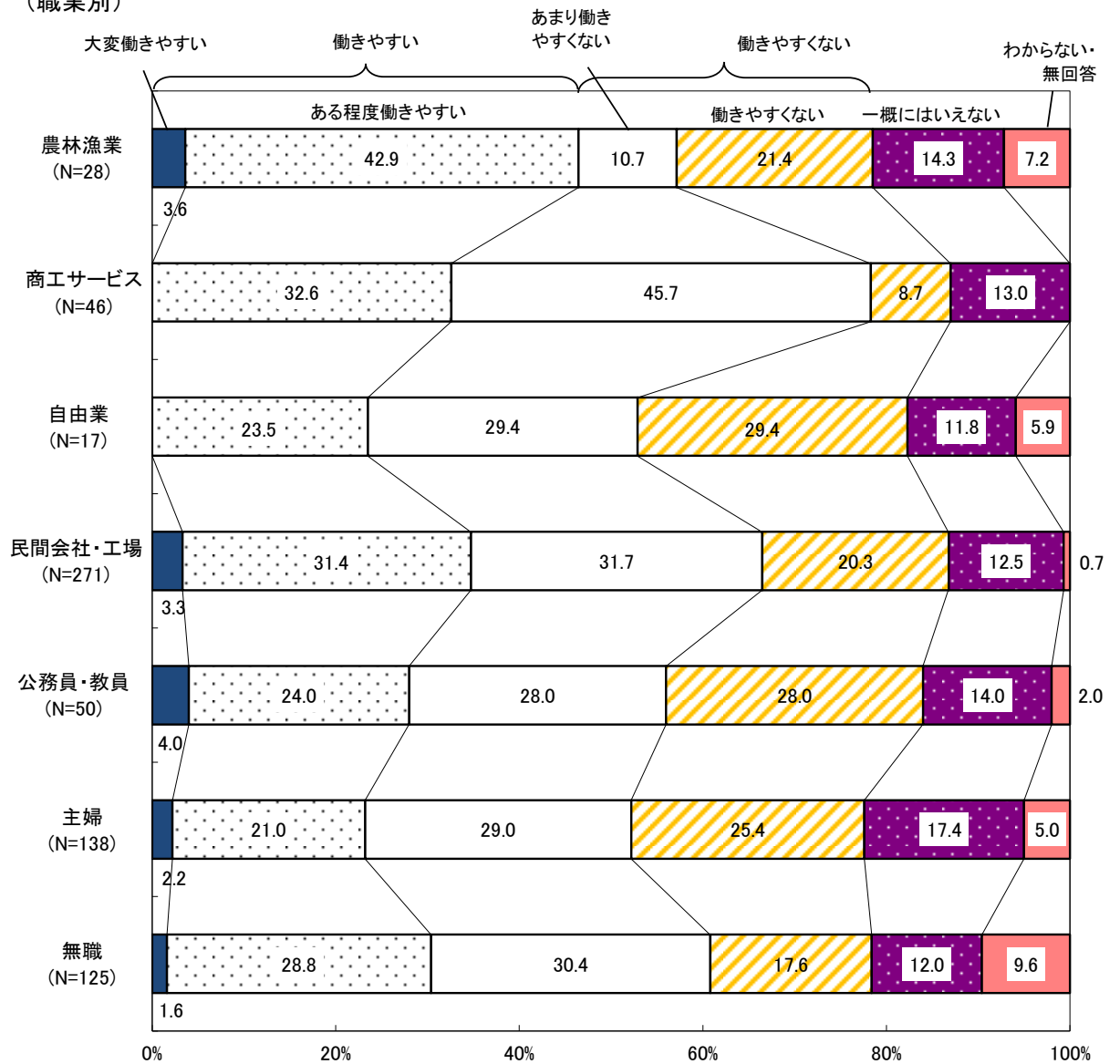
○20年調査と比べて見ると、「働きやすいとは思わない」とする人の割合は20年調査の52.7%に対し今回調査は50.2%と低く、「働きやすい」とする人の割合は20年調査の29.9%に対し今回調査は32.3%と高くなっている。



(男女別)



(職業別)



問7-2 問7-1で「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」または「働きやすい状況にあるとは思わない」とお答えの方に伺います。

それは、どのような理由からでしょうか。次の中から、いくつでもお選びください。

現在の女性が働きやすい状況にあるとは思わない理由について、「育児施設が十分整備されていない」と答えた人の割合は75.3%、「労働条件が整っていない」と答えた人の割合は73.2%、「働く場が限られている」と答えた人の割合は67.0%と高く、「結婚・出産退職の慣行がある」(43.2%)「昇進、教育訓練等に男女の差別的扱いがある」(39.4%)の順となっている。

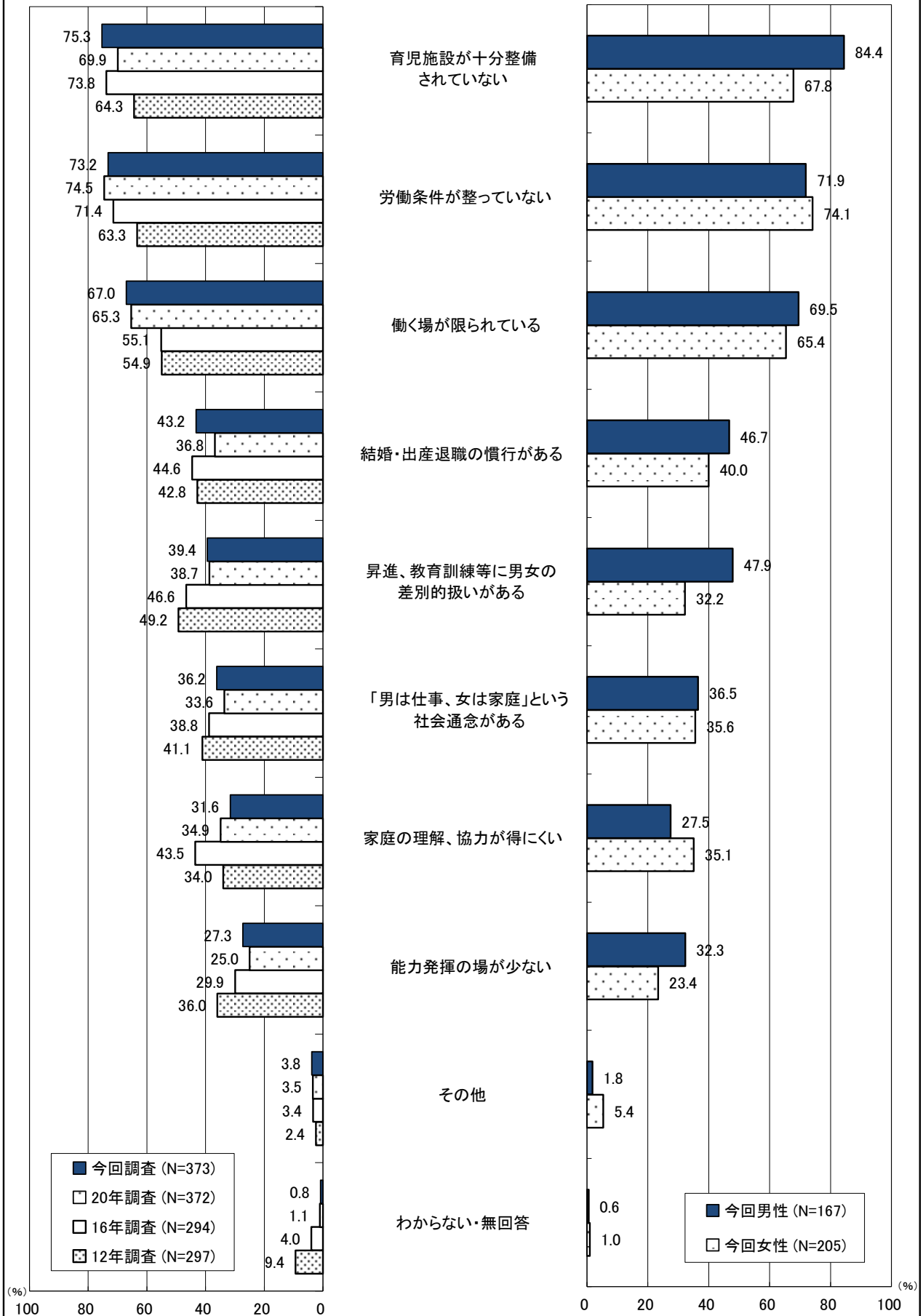
(上位5項目)

○性別で見ると、「育児施設が十分整備されていない」「働く場が限られている」「結婚・出産退職の慣行がある」「昇進、教育訓練等に男女の差別的扱いがある」と答えた人の割合は男性で、「労働条件が整っていない」と答えた人の割合は女性で、それぞれ高くなっている。

○年齢別で見ると、「育児施設が十分整備されていない」と答えた人の割合は40歳代で83.0%と高く、「労働条件が整っていない」と答えた人の割合は50歳代で、「働く場が限られている」と答えた人の割合は60歳代で、「結婚・出産退職の慣行がある」「昇進、教育訓練等に男女の差別的扱いがある」と答えた人の割合は20歳代で、それぞれ高くなっている。

○20年調査と比べて見ると、「育児施設が十分整備されていない」と答えた人の割合は20年調査の69.9%に対し今回調査は75.3%、「結婚・出産退職の慣行がある」と答えた人の割合は20年調査の36.8%に対し今回調査は43.2%と、今回調査がいずれも高くなっている。

図7-2 現在の女性が働きやすい状況にあるとは思わない理由



4. 男女の人権について

**問8 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。
次の中から、いくつでもお選びください。**

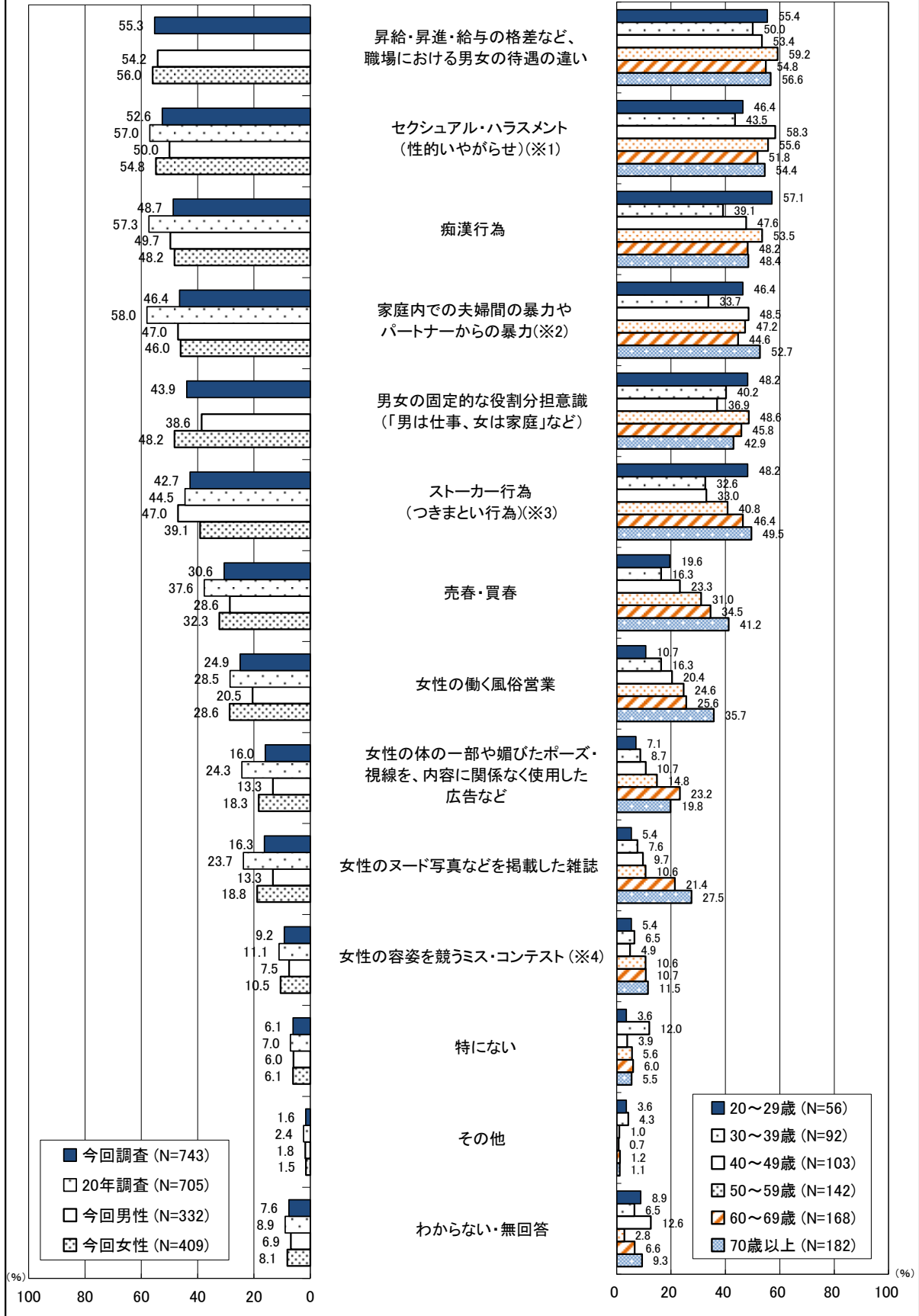
女性の人権が尊重されていないと感じることについて、「昇給・昇進・給与の格差など、職場における男女の待遇の違い」と答えた人の割合は55.3%、「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」と答えた人の割合は52.6%、「痴漢行為」と答えた人の割合は48.7%と高く、以下、「家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力」（46.4%）、「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」（43.9%）の順となっている。（上位5項目）

○性別で見ると、「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」と答えた人の割合は女性で高くなっている。

○年齢別で見ると、「昇給・昇進・給与の格差など、職場における男女の待遇の違い」と答えた人の割合は50歳代で高く、「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」と答えた人の割合は40歳代で、「痴漢行為」と答えた人の割合は20歳代で、「家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力」と答えた人の割合は70歳代で、それぞれ高くなっている。

○20年調査と比べてみると、「家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力」と答えた人の割合は20年調査（「家庭内での夫から妻への暴力」）の58.0%に対し今回調査で46.4%と、「痴漢行為」と答えた人の割合は20年調査の57.3%に対し今回調査で48.7%と、今回調査がいずれも低くなっている。

図8 女性の人権が尊重されていないと感じること



※20年調査：(※1) 職場におけるセクシュアル・ハラスメント (性的いやがらせ)

(※2) 家庭内での夫から妻への暴力

(※3) 女性に対するストーカー (つきまとい行為)

(※4) 女性の容ぼうを競うミス・コンテスト

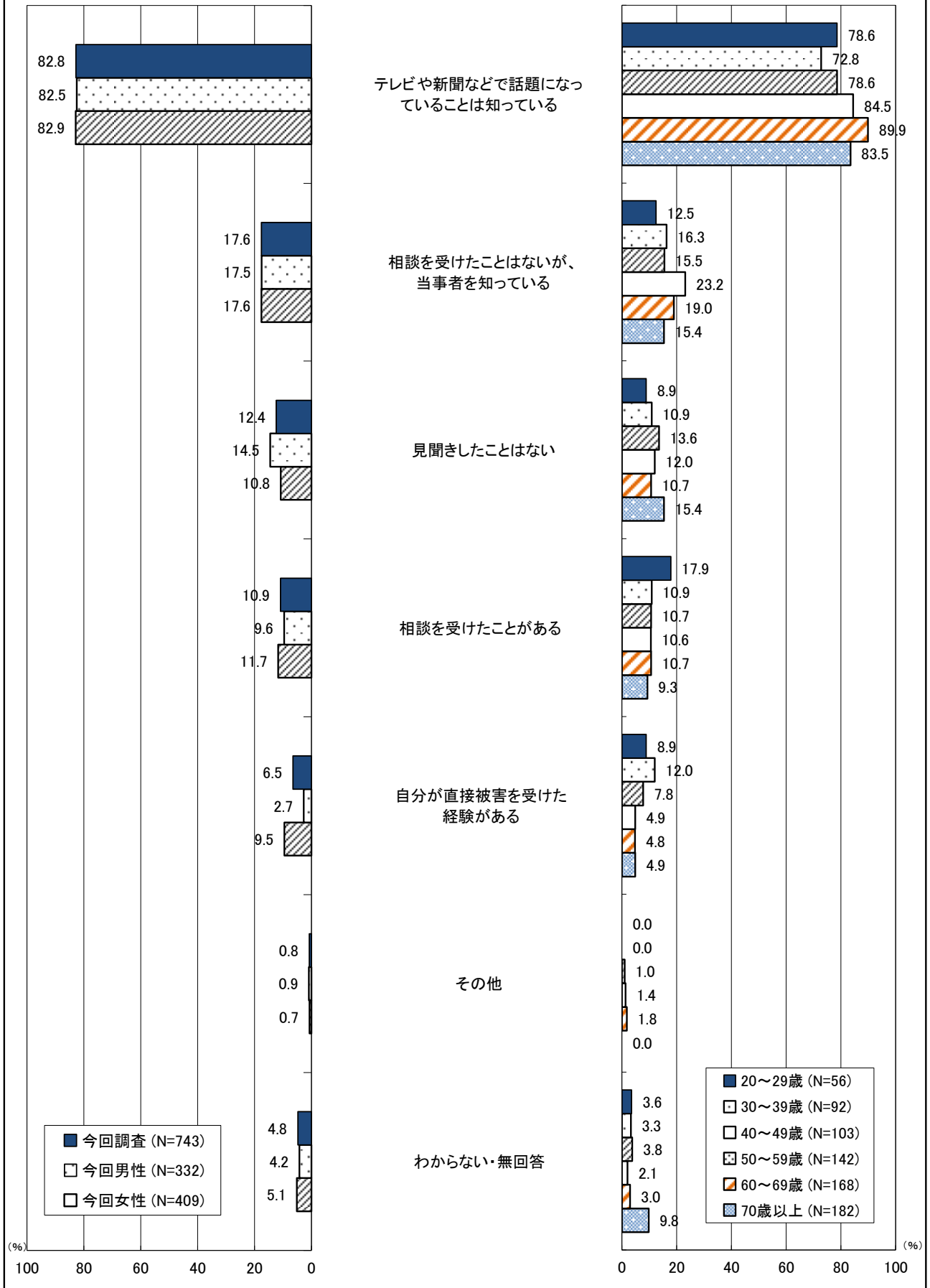
問9-1 あなたは、配偶者や恋人、パートナーなど親密な関係にある人からの暴力、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス（DV）」について、経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。次の中から、いくつでもお選びください。

DVについて経験したり見聞きしたりしたことについて、「テレビや新聞などで話題になっていることは知っている」と答えた人の割合は82.8%と最も高く、次いで「相談を受けたことはないが、当事者を知っている」と答えた人の割合は17.6%、以下、「見聞きしたことはない」（12.4%）、「相談を受けたことがある」（10.9%）、「自分が直接被害を受けた経験がある」（6.5%）の順となっている。

○性別で見ると、「見聞きしたことはない」と答えた人の割合は男性で、「相談を受けたことがある」「自分が直接被害を受けた経験がある」と答えた人の割合は女性で、それぞれ高くなっている。

○年齢別で見ると、「テレビや新聞などで話題になっていることは知っている」と答えた人の割合は60歳代で高く、「相談を受けたことはないが、当事者を知っている」と答えた人の割合は50歳代で、「見聞きしたことはない」と答えた人の割合は70歳以上で、「相談を受けたことがある」と答えた人の割合は20歳代で、「自分が直接被害を受けた経験がある」と答えた人の割合は30歳代で、それぞれ高くなっている。

図9-1 DVについて経験したり見聞きしたこと



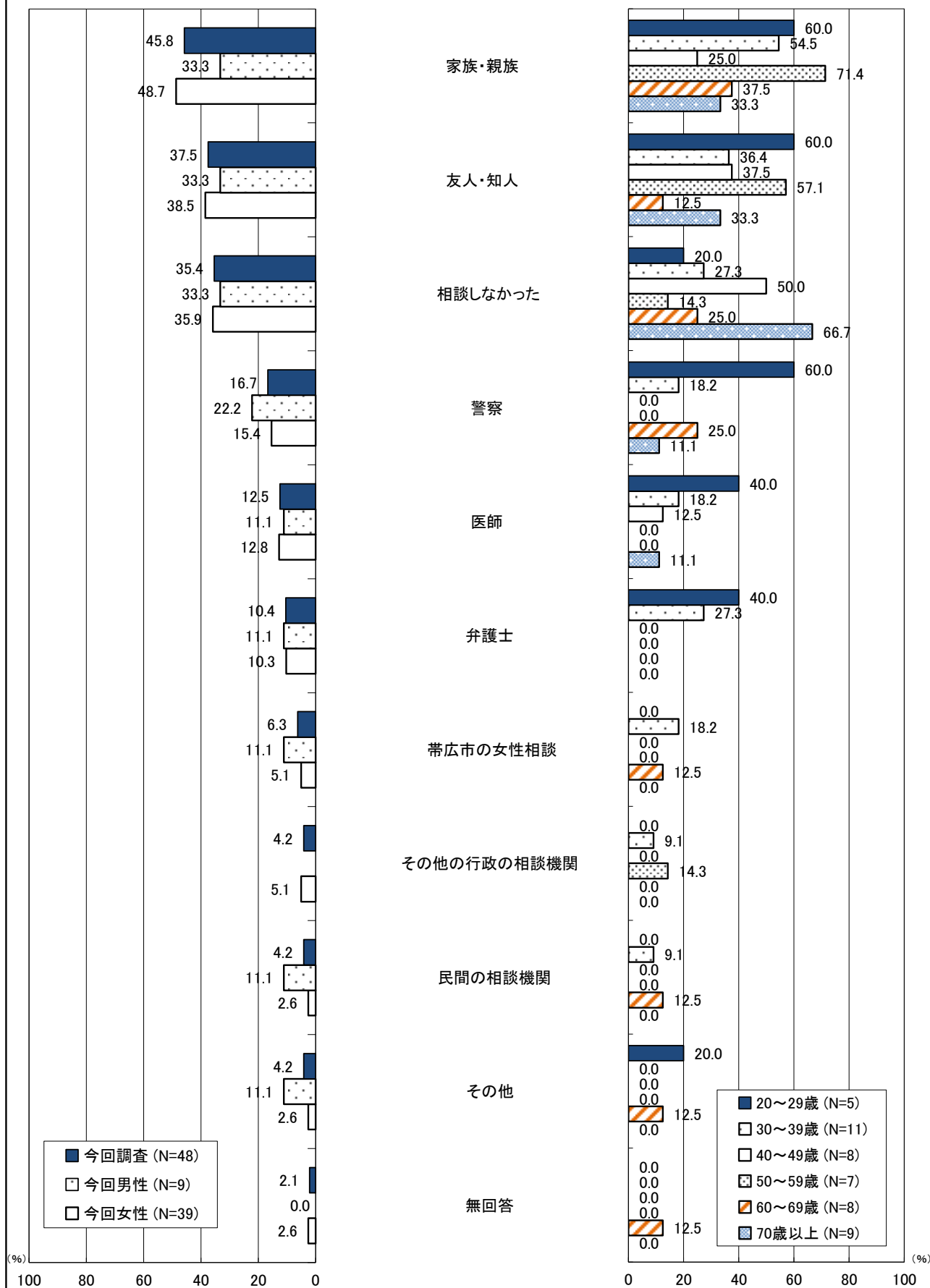
問9-2 問9-1で「1 自分が直接被害を受けた経験がある」とお答えの方に伺います。あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）について、どこかに相談しましたか。次の中から、いくつでもお選びください。

被害を受けた経験がある方のDVの相談先について、「家族・親族」と答えた人の割合は45.8%と最も高く、次いで、「友人・知人」と答えた人の割合は37.5%、以下、「相談しなかった」（35.4%）、「警察」（16.7%）、「医師」（12.5%）の順となっている。（上位5項目）

○性別で見ると、「家族・親族」「友人・知人」「相談しなかった」と答えた人の割合は女性で、「警察」と答えた人の割合は男性で、それぞれ高くなっている。

○年齢別で見ると、「家族・親族」と答えた人の割合は50歳代で高く、「友人・知人」「警察」「医師」と答えた人の割合は20歳代で、「相談しなかった」と答えた人の割合は70歳以上で、それぞれ高くなっている。

図9-2 被害を受けた人のDVIについての相談先



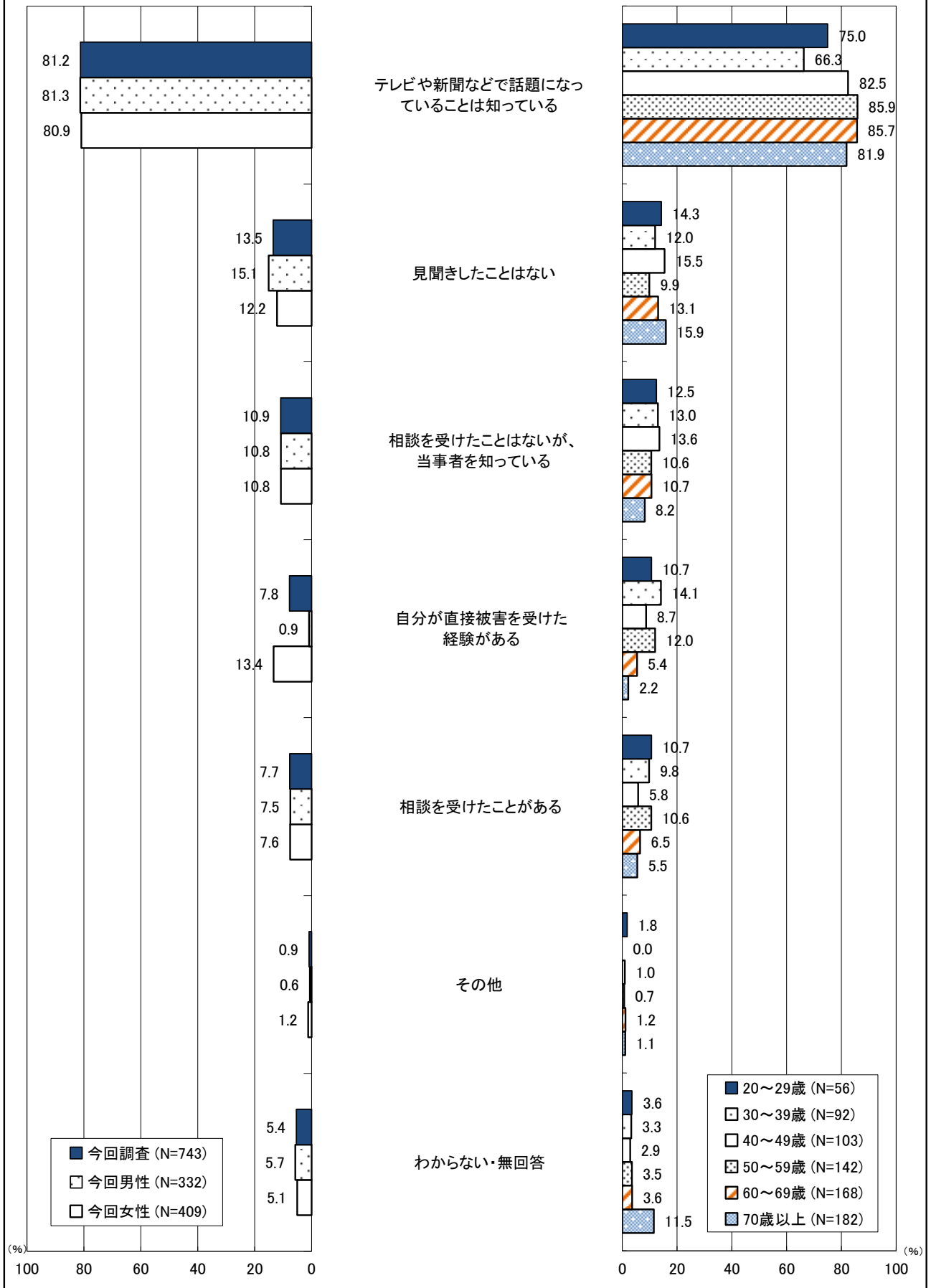
問 10 あなたは、「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」について、経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。次の中から、いくつでもお選びください。

セクシュアル・ハラスメントについて経験したり見聞きしたりしたことについて、「テレビや新聞などで話題になっていることは知っている」と答えた人の割合は81.2%と最も高く、次いで「見聞きしたことはない」と答えた人の割合は13.5%、以下、「相談を受けたことはないが、当事者を知っている」（10.9%）、「自分が直接被害を受けた経験がある」（7.8%）、「相談を受けたことがある」（7.7%）の順となっている。

○性別で見ると、「見聞きしたことはない」と答えた人の割合は男性で、「自分が直接被害を受けた経験がある」と答えた人の割合は女性で、それぞれ高くなっている。

○年齢別で見ると、「自分が直接被害を受けた経験がある」と答えた人の割合は30歳代で高く、「相談を受けたことがある」と答えた人の割合は20歳代と50歳代で、それぞれ高くなっている。

図10 セクハラについて経験したり見聞きしたこと



**問 11 性犯罪や配偶者からの暴力など、女性に対する暴力をなくすために、どのようにしたらよ
いと思いますか。次の中から、いくつでもお選びください。**

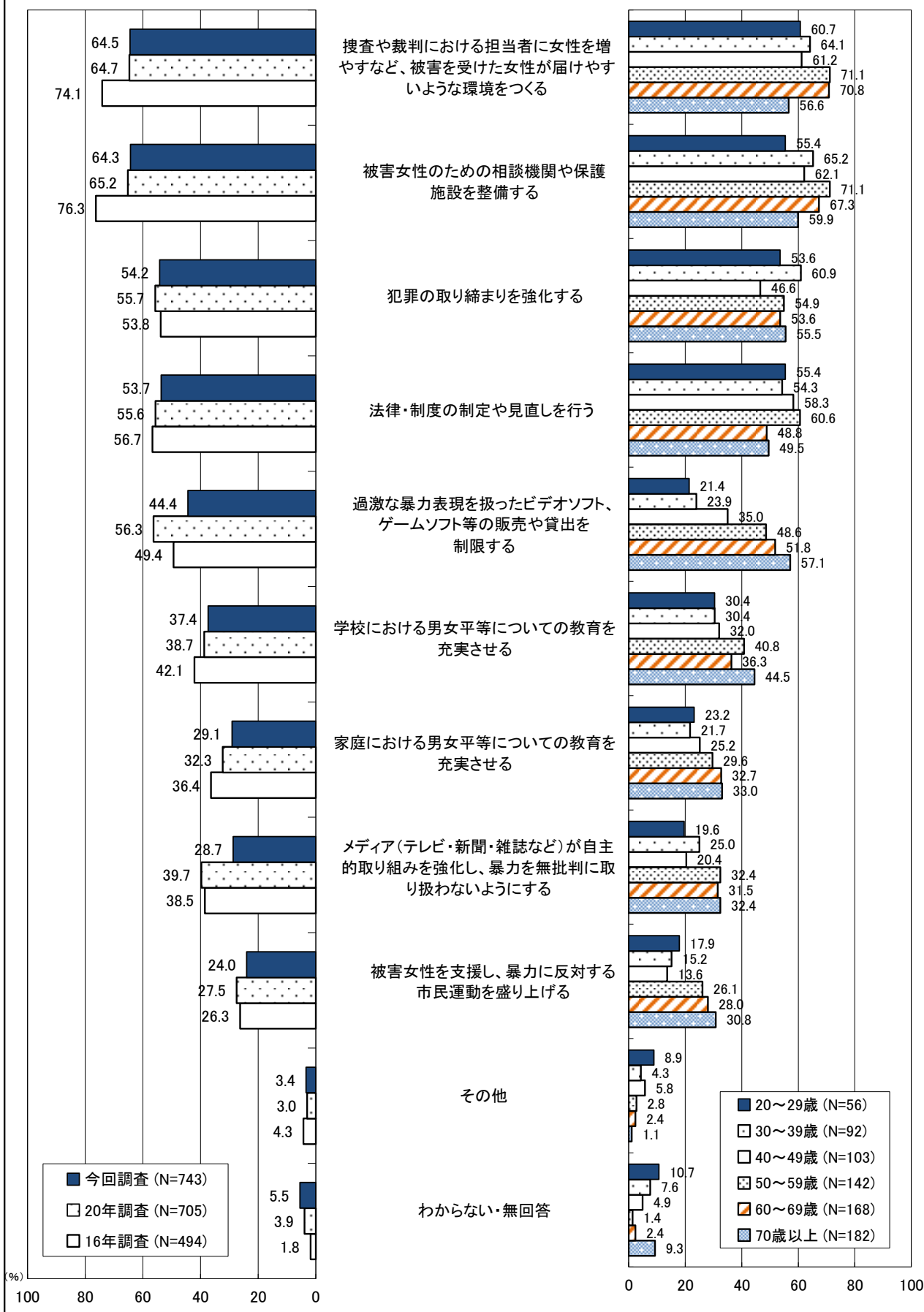
女性に対する暴力をなくすために、どのようにしたらよいかについて、「捜査や裁判における担当者に女性を増やすなど、被害を受けた女性が届けやすいような環境をつくる」と答えた人の割合は64.5%、「被害女性のための相談機関や保護施設を整備する」と答えた人の割合は64.3%と高く、以下、「犯罪の取り締りを強化する」(54.2%)、「法律・制度の制定や見直しを行う」(53.7%)、「過激な暴力表現を扱ったビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する」(44.4%)の順となっている。(上位5項目)

○性別で見ると、「捜査や裁判における担当者に女性を増やすなど、被害を受けた女性が届けやすいような環境をつくる」「被害女性のための相談機関や保護施設を整備する」「過激な暴力表現を扱ったビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する」と答えた人の割合は女性で、「犯罪の取り締まりを強化する」「法律・制度の制定や見直しを行う」と答えた人の割合は男性で、それぞれ高くなっている。

○年齢別で見ると、「捜査や裁判における担当者に女性を増やすなど、被害を受けた女性が届けやすいような環境をつくる」と答えた人の割合は50歳代と60歳代で高く、「被害女性のための相談機関や保護施設を整備する」「法律・制度の制定や見直しを行う」と答えた人の割合は50歳代で、「犯罪の取り締りを強化する」と答えた人の割合は30歳代で、「過激な暴力表現を扱ったビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する」と答えた人の割合は70歳以上で、それぞれ高くなっている。

○20年調査と比べて見ると、「過激な暴力表現を扱ったビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する」と答えた人の割合は20年調査の56.3%に対し今回調査で44.4%、「メディア(テレビ・新聞・雑誌など)が自主的取り組みを強化し、暴力を無批判に取り扱わないようにする」と答えた人の割合は20年調査の39.7%に対し今回調査で28.7%と、今回調査がいずれも低くなっている。

図11 女性に対する暴力をなくすためにすること



5. 男女共同参画について

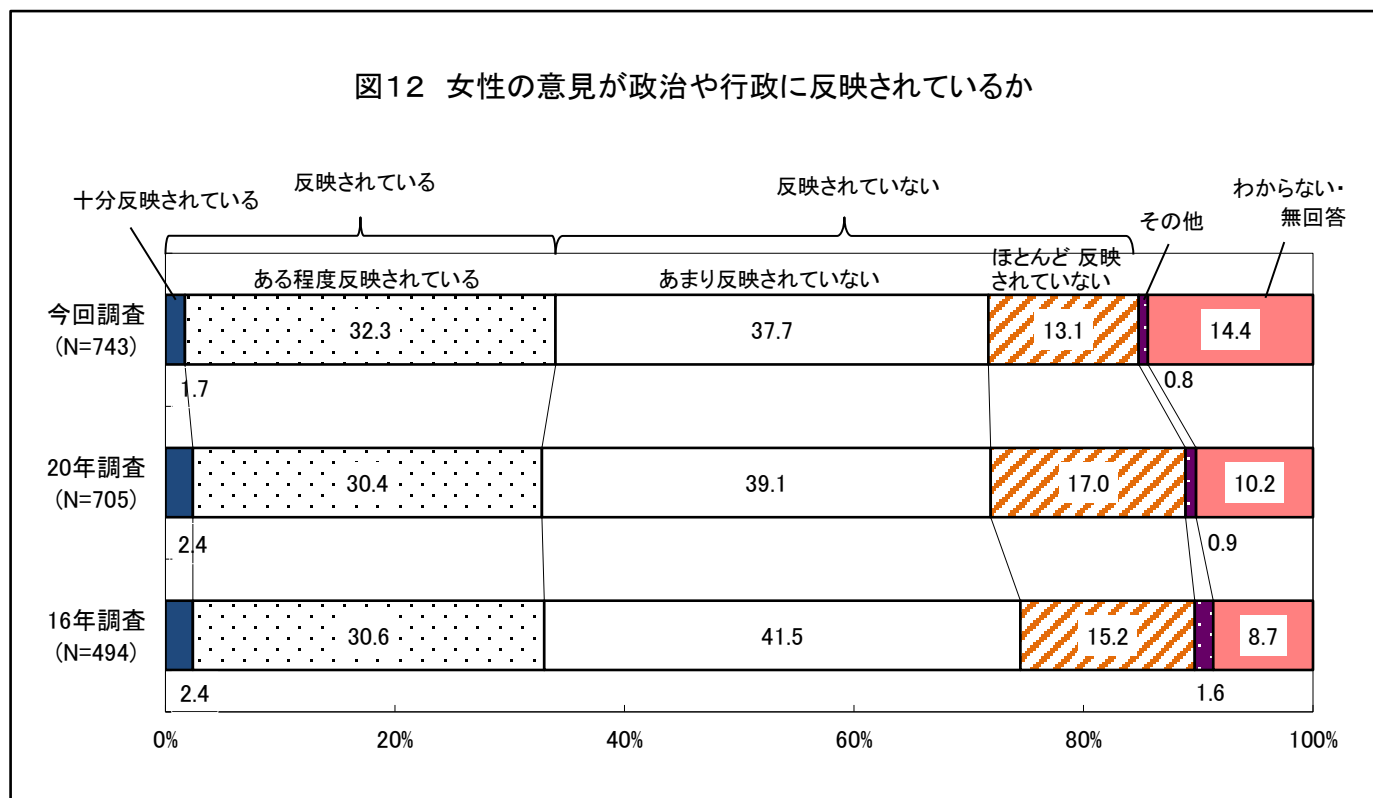
問 12 あなたは、女性の意見が政治や行政にどの程度反映されていると思いますか。次の中から、1つだけお選びください。

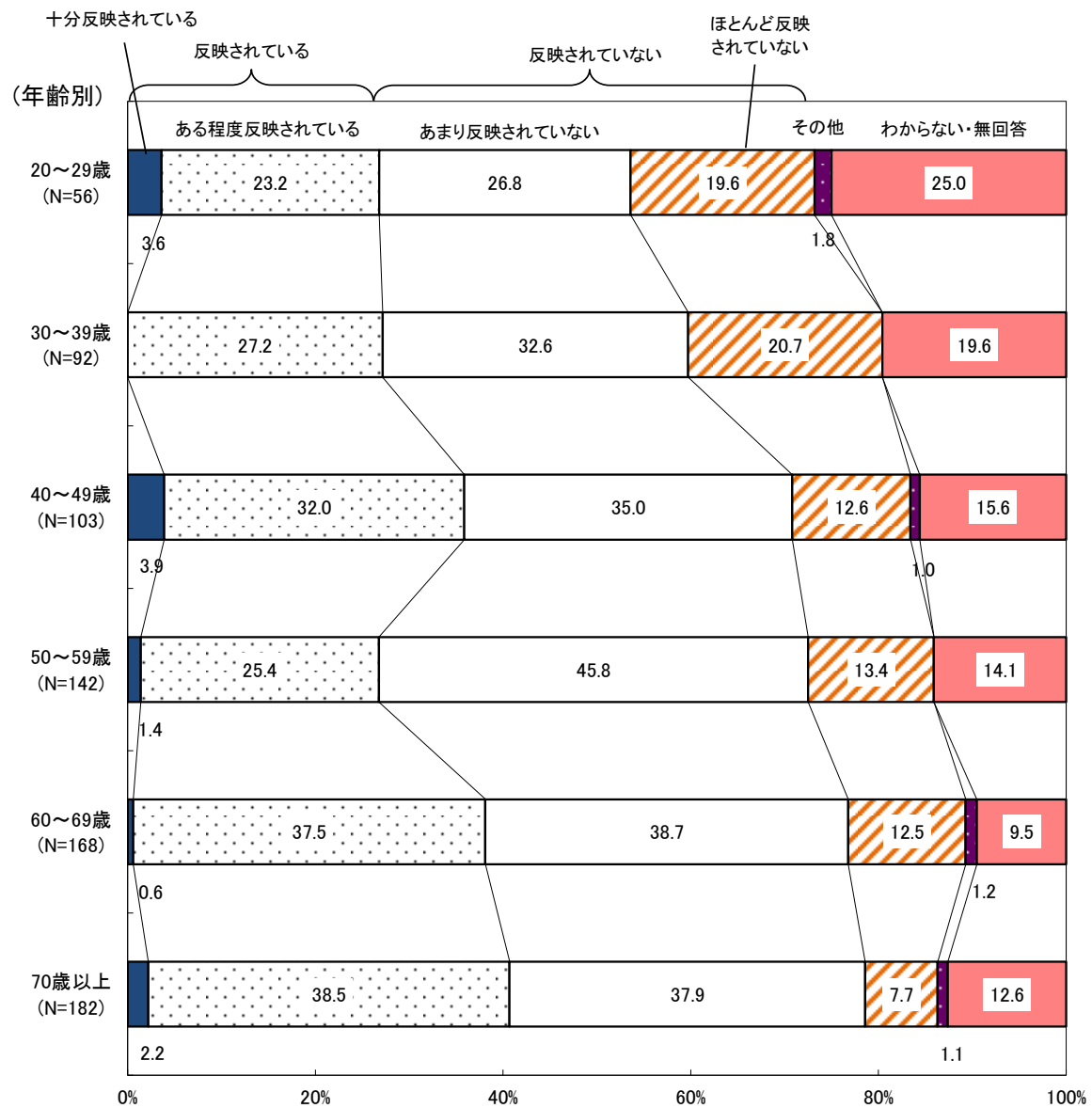
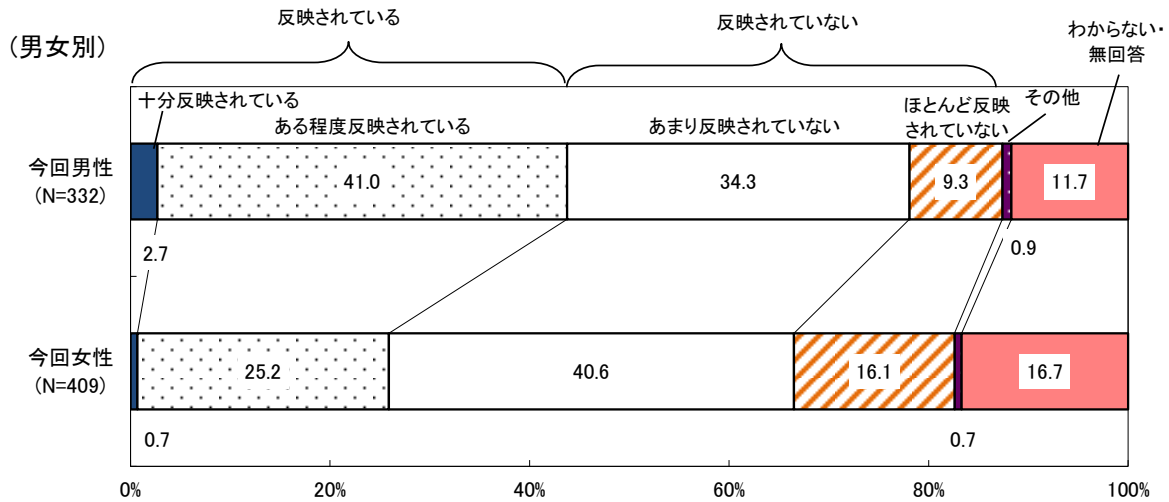
女性の意見が政治や行政にどの程度反映されているかについて、「反映されていない」とする人の割合は50.8%（「あまり反映されていない」37.7%+「ほとんど反映されていない」13.1%）、「反映されている」とする人の割合は34.0%（「十分反映されている」1.7%+「ある程度反映されている」32.3%）となっている。

○性別で見ると、「反映されていない」とする人の割合は男性で43.6%、女性で56.7%と女性で高く、「反映されている」とする人の割合は男性で43.7%、女性で25.9%と男性で高くなっている。

○年齢別で見ると、「反映されていない」とする人の割合は50歳代で59.2%、「反映されている」とする人の割合は70歳以上で40.7%と、それぞれ高くなっている。

○20年調査と比べて見ると、「反映されていない」とする人の割合は20年調査の56.1%に対し今回調査は50.8%と低く、「反映されている」とする人の割合は20年調査の32.8%に対し今回調査は34.0%と高くなっている・





問 13 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。次の中から、あなたの気持ちに最も近いものを1つだけお選びください。

(ア) 家庭生活中で、「男性の方が優遇されている」とする人の割合は 50.0%（「男性の方が非常に優遇されている」6.7%+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」43.3%）、「平等」と答えた人の割合は 33.8%、「女性の方が優遇されている」とする人の割合は 9.4%（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」7.7%+「女性の方が非常に優遇されている」1.7%）となっている。

(イ) 職場で、「男性の方が優遇されている」とする人の割合は 66.8%、「平等」と答えた人の割合は 16.7%、「女性の方が優遇されている」とする人の割合は 5.6%となっている。

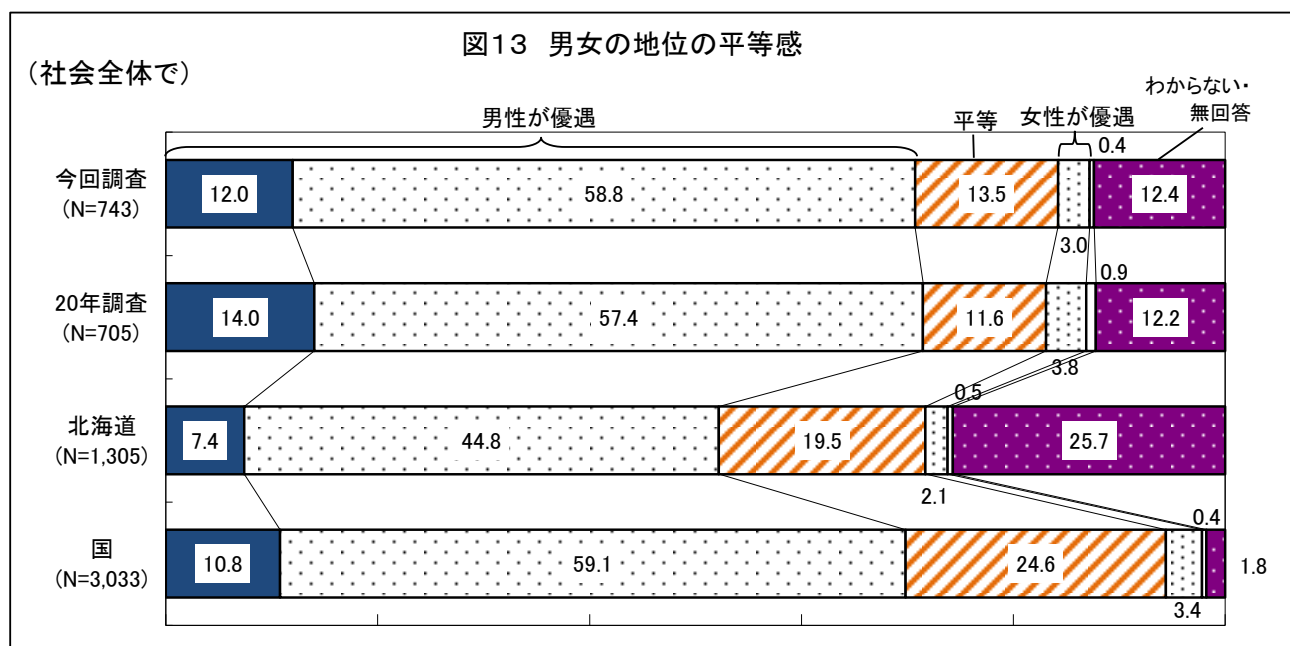
(ウ) 学校教育の場で、「男性の方が優遇されている」とする人の割合は 16.7%、「平等」と答えた人の割合は 57.9%、「女性の方が優遇されている」とする人の割合は 4.5%となっている。

(エ) 政治の場で、「男性の方が優遇されている」とする人の割合は 68.1%、「平等」と答えた人の割合は 15.2%、「女性の方が優遇されている」とする人の割合は 1.2%となっている。

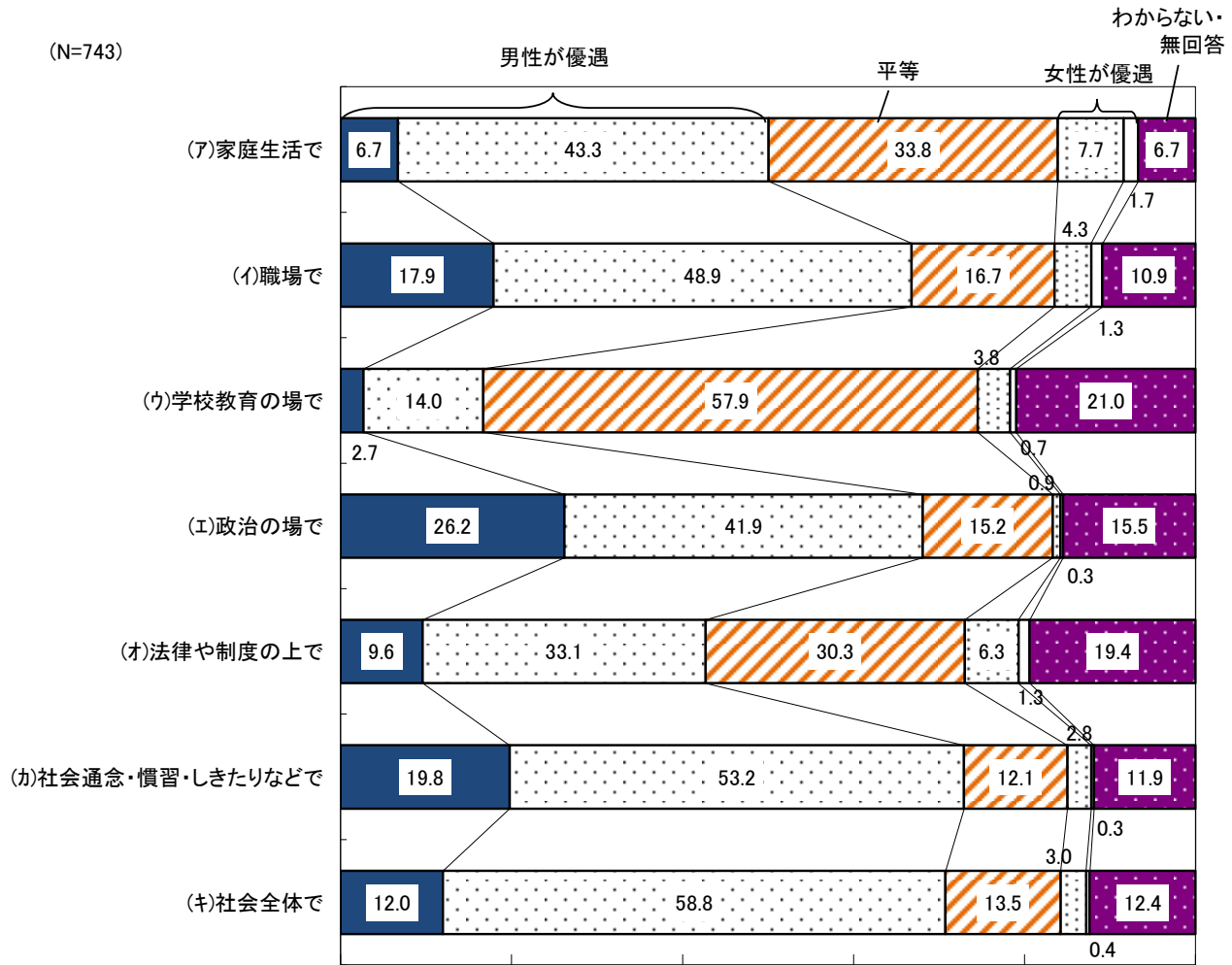
(オ) 法律や制度の上で、「男性の方が優遇されている」とする人の割合は 42.7%、「平等」と答えた人の割合は 30.3%、「女性の方が優遇されている」とする人の割合は 7.6%となっている。

(カ) 社会通念・慣習・しきたりなどで、「男性の方が優遇されている」とする人の割合は 73.0%、「平等」と答えた人の割合は 12.1%、「女性の方が優遇されている」とする人の割合は 3.1%となっている。

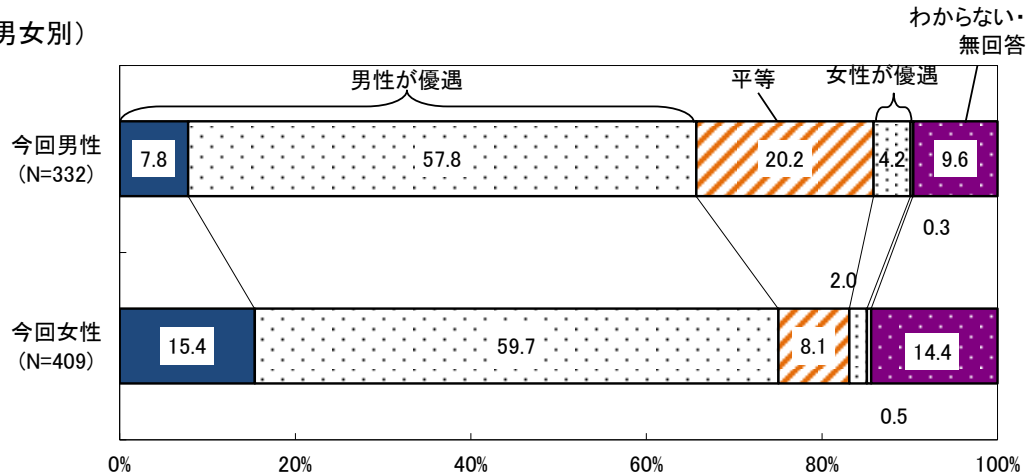
(キ) 社会全体で、「男性の方が優遇されている」とする人の割合は 70.8%、「平等」と答えた人の割合は 13.5%、「女性の方が優遇されている」とする人の割合は 3.4%となっている。



(N=743)



(社会全体 男女別)



- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない・無回答

問 14 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、あなたが最も重要と思うことは何ですか。次の中から、1つだけお選びください。

男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要と思うことについて、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」と答えた人の割合は27.7%と最も高く、次いで、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」と答えた人の割合は23.1%、以下、「行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること」(13.3%)、「女性の就職、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(12.5%)、「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」(10.9%)となっている。

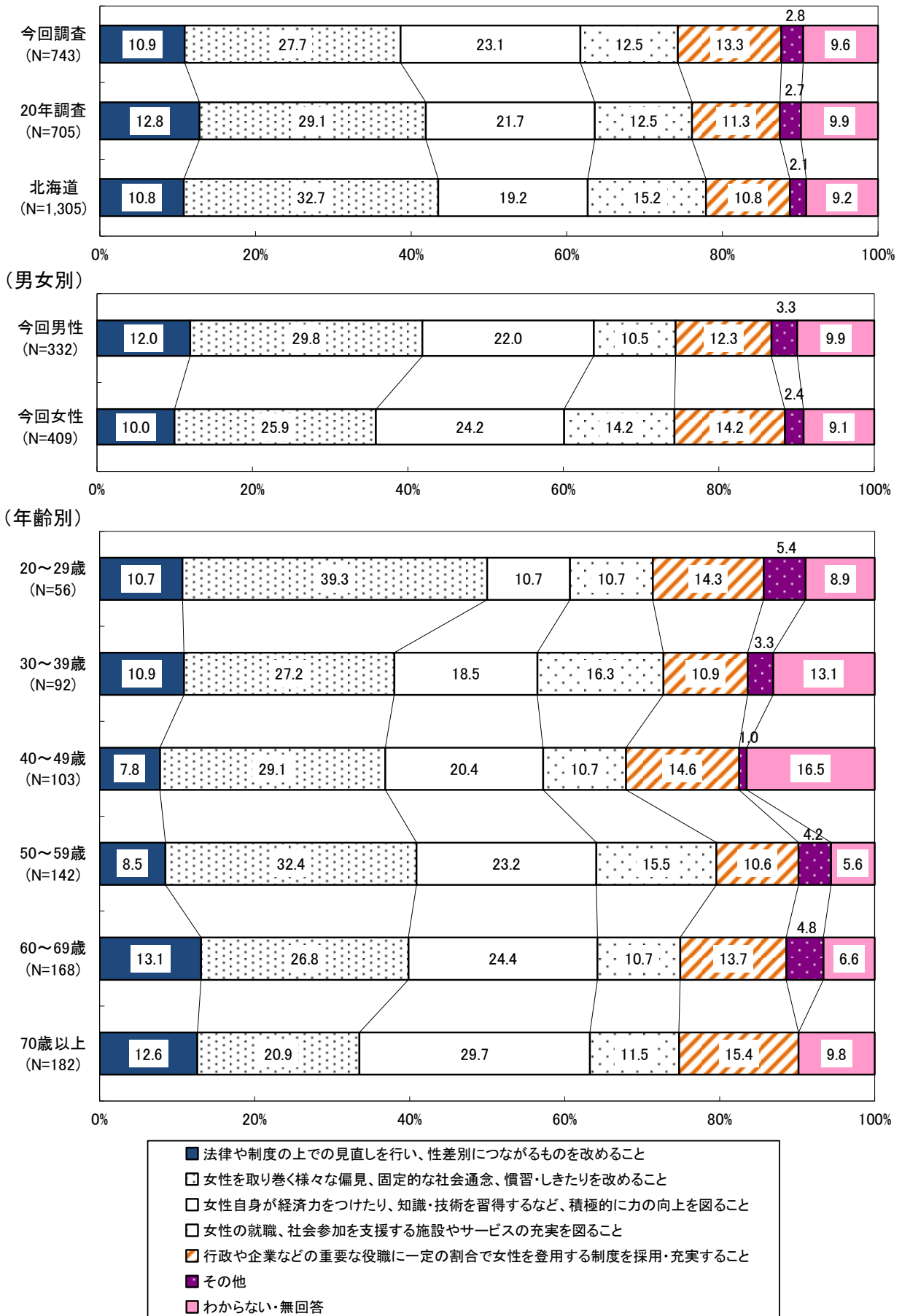
○性別で見ると、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」と答えた人の割合は男性で、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」「女性の就職、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」と答えた人の割合は女性で、それぞれ高くなっている。

○年齢別で見ると、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」と答えた人の割合は20歳代で39.3%と高く、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」と答えた人の割合は70歳以上で、「女性の就職、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」と答えた人の割合は30歳代で、「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」と答えた人の割合は60歳代で、それぞれ高くなっている。

○北海道と比べて見ると、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」と答えた人の割合は北海道の32.7%に対し帯広市は27.7%と低く、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」と答えた人の割合は北海道の19.2%に対し帯広市は23.1%と高くなっている。

○20年調査と比べて見ると、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」と答えた人の割合は20年調査の29.1%に対し今回調査は27.7%と低く、「行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること」と答えた人の割合は20年調査の11.3%に対し今回調査は13.3%と高くなっている。

図14 男女が平等になるために重要なこと



問 15 あなたは、帯広市が男女共同参画社会づくりをすすめていくために、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から、いくつでもお選びください。

帯広市が男女共同社会づくりをすすめていくために重要なことについて、「育児・保育サービスの充実など子育て支援を強化する」と答えた人の割合は 70.0%、次いで、「高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」と答えた人の割合は 63.9%、「企業に対して、男女がともに仕事と家庭を両立できる環境を整備するよう働きかけること」と答えた人の割合は 62.6%と高く、以下、「女性の就職・再就職のための職業情報、職業訓練の機会を提供する」(52.5%)、「悩みや、問題解決を助ける相談窓口や相談機能を充実する」(47.4%)の順となっている。

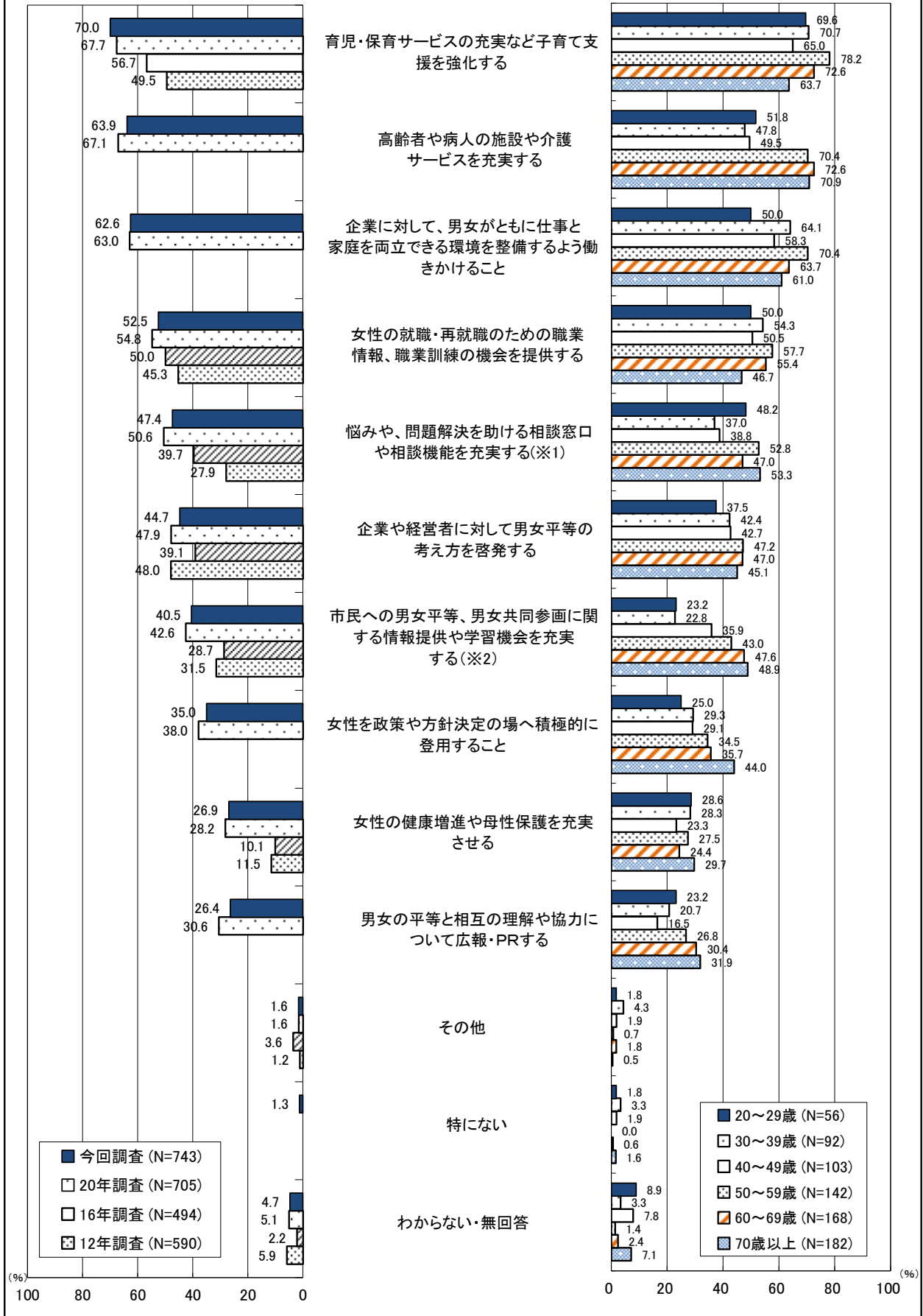
(上位 5 項目)

○性別で見ると、「育児・保育サービスの充実など子育て支援を強化する」「悩みや、問題解決を助ける相談窓口や相談機能を充実する」と答えた人の割合は男性で、「高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」「企業に対して、男女がともに仕事と家庭を両立できる環境を整備するよう働きかけること」「女性の就職・再就職のための職業情報、職業訓練の機会を提供する」と答えた人の割合は女性で、それぞれ高くなっている。

○年齢別で見ると、「育児・保育サービスの充実など子育て支援を強化する」「女性の就職・再就職のための職業情報、職業訓練の機会を提供する」「企業に対して、男女がともに仕事と家庭を両立できる環境を整備するよう働きかけること」と答えた人の割合は 50 歳代で高く、「悩みや、問題解決を助ける相談窓口や相談機能を充実する」と答えた人の割合は 50 歳代と 70 歳以上で、それぞれ高くなっている。

○20 年調査と比べて見ると、「育児・保育サービスの充実など子育て支援を強化する」と答えた人の割合は 20 年調査の 67.7%に対し今回調査は 70.0%と高く、「高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」と答えた人の割合は 20 年調査の 67.1 に対し今回調査は 63.9%と低くなっている。

図15 帯広市が男女共同参画をすすめるために重要なこと



※1 「悩みや、問題解決を助ける相談窓口などの情報窓口を設ける」(20年調査)、「女性の悩みや問題解決を助ける相談窓口などの情報窓口を設ける」(12年及び16年調査)

※2 「市民への男女平等、男女共同参画に関する学習機会を増やす」(12年及び16年調査)

Ⅲ 調査票

次の質問の答えで、該当する番号を回答用紙にご記入ください。

あなたご自身のことについてお伺いします

I あなたの性別は。

- 1 男性
- 2 女性

II あなたの年齢はおいくつですか。(平成26年1月31日現在)

- 1 20～29歳
- 2 30～39歳
- 3 40～49歳
- 4 50～59歳
- 5 60～69歳
- 6 70歳以上

III あなたは現在結婚していますか。

- 1 未婚
- 2 既婚（配偶者等（※）あり）
- 3 既婚（配偶者等と離別・死別）

（※）配偶者等には、婚姻届を出していない事実婚のパートナーを含みます。

※（III）で「2 既婚（配偶者等（※）あり）」を選んだ方にお伺いします。あなたは共働き（パートタイムを含む）ですか。

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 その他（具体的に

IV あなたは今、働いていますか。それはどのようなお仕事ですか。

- | | | |
|-----|---|------------------------------|
| 自営業 | 1 | 農林漁業 |
| | 2 | 商工サービス業 |
| | 3 | 自由業（弁護士・作家・開業医など） |
| 雇用者 | 4 | 民間会社、工場、商工サービス業など（パートタイムを含む） |
| | 5 | 公務員、教員 |
| 無職 | 6 | 主婦（他に仕事を持たない） |
| | 7 | 学生 |
| | 8 | その他無職 |
| その他 | 9 | その他（具体的に) |

言葉についてお伺いします

問1 次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものを、いくつでもお選びください。

- 1 男女共同参画社会
- 2 育児介護休業法
- 3 女子差別撤廃条約
- 4 ジェンダー（社会的、文化的に形成された性別）
- 5 ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
- 6 DV（配偶者からの暴力）
- 7 男女雇用機会均等法
- 8 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
- 9 見たり聞いたりしたものはない

家庭生活についてお伺いします

問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはごどう思われますか。次の中から、1つだけお選びください。

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 反対
- 5 わからない

問3 一般的に、家庭での家事や育児の役割分担について、あなたはどのように考えますか。次の中から、1つだけお選びください。

- 1 男女とも同じように家事や育児を行うのがよい
- 2 どちらでも手のあいている方が家事や育児をすればよい
- 3 家事や育児は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい
- 4 男性は家事や育児をしなくてもよい
- 5 その他（具体的に _____)
- 6 わからない

問4 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること
- 6 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 7 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
- 8 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
- 9 男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること
- 10 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 11 その他（具体的に _____)
- 12 わからない

問5-1 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についてお伺いします。まず、あなたの希望に最も近いものを次の中から、1つだけお選びください。

- 1 「仕事」を優先したい
- 2 「家庭生活」を優先したい
- 3 「地域・個人の生活」を優先したい
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 8 わからない

問5-2 それでは、あなたの現実（現状）に最も近いものを次の中から、1つだけお選びください。

- 1 「仕事」を優先している
- 2 「家庭生活」を優先している
- 3 「地域・個人の生活」を優先している
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 8 わからない

問5-3 男女にかかわらず、子育てや介護など、仕事と家庭生活を両立する上でどのようなことが必要だと思いますか。（自由記述）

職業についてお伺いします

問6 女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。次の中から、1つだけお選びください。

- 1 女性は職業をもたない方がよい
- 2 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
- 3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 5 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 6 その他（具体的に)
- 7 わからない

問7-1 現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。次の中から、1つだけお選びください。

- 1 大変働きやすい状況にあると思う
- 2 ある程度働きやすい状況にあると思う
- 3 あまり働きやすい状況にあるとは思わない
- 4 働きやすい状況にあるとは思わない
- 5 一概にはいえない
- 6 わからない

問7-2 問7-1で「3 あまり働きやすい状況にあるとは思わない」または「4 働きやすい状況にあるとは思わない」とお答えの方に伺います。それは、どのような理由からでしょうか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 働く場が限られている
- 2 能力発揮の場が少ない
- 3 労働条件が整っていない
- 4 育児施設が十分整備されていない
- 5 昇進、教育訓練等に男女の差別的扱いがある
- 6 結婚・出産退職の慣行がある
- 7 「男は仕事、女は家庭」という社会通念がある
- 8 家庭の理解、協力が得にくい
- 9 その他（具体的に)
- 10 わからない

男女の人権についてお伺いします

問8 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 売春・買春
- 2 女性の働く風俗営業
- 3 家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力
- 4 セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）
- 5 女性のヌード写真などを掲載した雑誌
- 6 女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など
- 7 女性の容姿を競うミス・コンテスト
- 8 ストーカー行為（つきまとい行為）
- 9 痴漢行為
- 10 昇給・昇進・給与の格差など、職場における男女の待遇の違い
- 11 男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）
- 12 その他（具体的に)
- 13 特になし
- 14 わからない

問9-1 あなたは、配偶者や恋人、パートナーなど親密な関係にある人からの暴力、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス（DV）」について、経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 自分が直接被害を受けた経験がある
- 2 相談を受けたことがある
- 3 相談を受けたことはないが、当事者を知っている
- 4 テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
- 5 見聞きしたことはない
- 6 その他（具体的に _____)
- 7 分からない

問9-2 問9-1で「1 自分が直接被害を受けた経験がある」とお答えの方に伺います。あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）について、どこかに相談しましたか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 家族・親族
- 2 友人・知人
- 3 警察
- 4 医師
- 5 弁護士
- 6 帯広市の女性相談
- 7 その他の行政の相談機関
- 8 民間の相談機関
- 9 相談しなかった
- 10 その他（具体的に _____)

問10 あなたは、「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」について、経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 自分が直接被害を受けた経験がある
- 2 相談を受けたことがある
- 3 相談を受けたことはないが、当事者を知っている
- 4 テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
- 5 見聞きしたことはない
- 6 その他（具体的に _____)
- 7 分からない

問 11 性犯罪や配偶者からの暴力など、女性に対する暴力をなくすために、どのようにしたらよいと思いますか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 法律・制度の制定や見直しを行う
- 2 犯罪の取り締まりを強化する
- 3 捜査や裁判における担当者に女性を増やすなど、被害を受けた女性が届けやすいような環境をつくる
- 4 被害女性を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる
- 5 被害女性のための相談機関や保護施設を整備する
- 6 家庭における男女平等についての教育を充実させる
- 7 学校における男女平等についての教育を充実させる
- 8 メディア（テレビ、新聞、雑誌など）が自主的取り組みを強化し、暴力を無批判に取り扱わないようにする
- 9 過激な暴力表現を扱ったビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する
- 10 その他（具体的に _____）
- 11 わからない

男女共同参画についてお伺いします

問 12 あなたは、女性の意見が政治や行政にどの程度反映されていると思いますか。次の中から、1つだけお選びください。

- 1 十分反映されている
- 2 ある程度反映されている
- 3 あまり反映されていない
- 4 ほとんど反映されていない
- 5 その他（具体的に _____）
- 6 わからない

問 13 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

1～6の中から、あなたの気持ちに最も近いものを1つだけお選びください。

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
(ア) 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
(イ) 職場で	1	2	3	4	5	6
(ウ) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(エ) 政治の場で	1	2	3	4	5	6
(オ) 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
(カ) 社会通念・慣習しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
(キ) 社会全体で	1	2	3	4	5	6

問 14 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、あなたが最も重要と思うことは何ですか。次の中から、1つだけお選びください。

- 1 法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること
- 2 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
- 3 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること
- 4 女性の就職、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
- 5 行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
- 6 その他（具体的に _____ ）
- 7 わからない

問 15 あなたは、帯広市が男女共同参画社会づくりをすすめていくために、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から、いくつでもお選びください。

- 1 市民への男女平等、男女共同参画に関する情報提供や学習機会を充実する
- 2 悩みや、問題解決を助ける相談窓口や相談機能を充実する
- 3 育児・保育サービスの充実など子育て支援を強化する
- 4 高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
- 5 女性の就職・再就職のための職業情報、職業訓練の機会を提供する
- 6 女性の健康増進や母性保護を充実させる
- 7 企業や経営者に対して男女平等の考え方を啓発する
- 8 女性を政策や方針決定の場へ積極的に登用すること
- 9 企業に対して、男女がともに仕事と家庭を両立できる環境を整備するよう働きかけること
- 10 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする
- 11 その他（具体的に _____)
- 12 特にない
- 13 わからない

最後までアンケートにご協力いただきありがとうございました。

回答用紙の最後に、「男女共同参画社会」に関するご意見、ご要望などがございましたら、ご記入願います。